

AirH" Card petit

技術基準適合認定品

CFE-02
PCカードアダプタ
取扱説明書

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みになり、
正しくお取り扱いください。
また、お読みになった後も必要な時にすぐに見られる
ように大切に保管してください。

本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
本書および本書に記載された製品の使用によって発生した損害、およびその回復に要する費用について、当社は一切の責任を負いません。
本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って処理するようお願いいたします。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。

Windows® 95は、Microsoft® Windows® 95 operating systemの略です。
Windows® 98は、Microsoft® Windows® 98 operating systemの略です。
Windows® Meは、Microsoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
Windows® 2000は、Microsoft® Windows® 2000 operating systemの略です。
Windows® CEは、Microsoft® Windows® CE operating systemの略です。
Windows® XPは、Microsoft® Windows® XP operating systemの略です。
Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Hayes（ヘイズ）は、米国Hayes Micro Computer Products. Inc.の登録商標です。
PIAFSは、PHS Internet Access Forum Standardの略称です。
Compact Flash™は、米国San Disk社の登録商標であり、CFA（Compact Flash Association）にライセンスされています。
その他、商品名および製品名などは、一般に各社の商標または登録商標です。

はじめに

このたびは、AirH" Card petit CFE-02をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書は、CFE-02（以下、「本CF型カード」と表記）の取扱説明書で、本CF型カードを、お使いのパソコンやPDAで使用できるまでのセットアップ方法について、使用環境別に説明しています。
また、インターネットやデータ通信を初めてご利用になる方のために、専門用語の簡単な説明を用語集に記載しています。あわせてご利用ください。

本CF型カードが使用できる使用環境は次のとおりです。

- Windows® 95/98/98SE/Me/2000/XP対応のパソコン、およびWindows® CE対応のハンドヘルドPCまたはPDA。
- CF+ and Compact Flash Specification Revision 1.4以上に準拠したCFカードスロットTYPEⅡ、またはPC Card Standard 95以上に準拠したPCカードスロットTYPEⅡ（PCカードアダプタを使用）を持つもの。（本CF型カードはDC3.3Vで動作します）

なお、本CF型カードは、PIAFS2.2版/PIAFS2.1版/PIAFS2.0版/PIAFS1.0版対応のデータ通信機能および32kパケット通信機能を搭載したPHSデータ通信専用のカードであり、音声通信には対応していません。
ご使用の前に、必ず「安全上のご注意」をよくお読みになり、安全に正しくお取り扱いください。
また本書は、お読みになった後も必要なときにすぐに見られるように大切に保管してください。

お願い　●パソコンに対するサポートやOSのバージョンアップなどのサービスに関するお問い合わせは承っておりません。パソコンおよびOSのお取り扱いは、各マニュアルをよく読んで、各メーカーの定める手順に従ってください。

安全上のご注意

本書では、本CF型カードを安全に正しくお使いいただくため、また機器の損傷を防ぐために、次の記号を使って注意を喚起しています。
これらの記号表示の意味は次の通りです。内容をよく理解して、これらの記号が表示されているところの記載事項については、必ずお守りください。

絵表示の例

⚠警告	**この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
⚠注意	**この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。**
お願い	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。**

●本機は日本国内用に設計されていますので、海外では使用できません。
This PHS（Personal Handy-phone System）is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
●免責事項について
・火災・地震・第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
・本製品の使用または使用不能から生ずる付随的な損害（記憶内容の変化・消失・通信などの機会を逃したために生じた損害、事業利益の損失、事業の中断など）に関して、当社は一切責任を負いません。
・取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
●本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、弊社サービス相談センターへお申しつけください。
●本書の内容に関しては将来予告無しに変更することがあります。



警告

●本CF型カードを故意に開けないでください。
・感電や故障の原因となります。

●万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。本CF型カードの場合はすぐに接続しているパソコンなどの電源を切り、煙が出なくなるのを確認して弊社サービス相談センターなどへご連絡ください。
・お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

●本CF型カードのすき間などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、まず本CF型カードを接続しているパソコンなどの電源を切り、接続を外して弊社サービス相談センターなどへご連絡ください。
・そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
・特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

●万一、内部に水などが入った場合は、まず本CF型カードを接続しているパソコンなどの電源を切り、接続を外して弊社サービス相談センターなどへご連絡ください。
・そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

●ぬれた手で本CF型カードに触れないでください。
・感電・故障の原因となります。

●車両の運転中には本CF型カードを使用しないでください。交通事故の原因となります。

●航空機の機内や病院など、使用を禁止されている場所では本CF型カードを使用しないでください。電波障害により、電子機器や医療機器に影響を及ぼす恐れがあり、事故の原因となります。

●本CF型カードを分解、改造しないでください。火災・感電および故障の原因となります。

使用上のご注意

⚠ 注意

●水や薬品のかかる可能性のある場所で本CF型カードを使用したり、放置したりしないでください。発熱や感電の原因となります。

●感電や火災などの事故防止のために、小さいお子様の手の届かない場所でご使用ください。

●日光や熱風が直接当たる所、暖房器具のそばなど、温度の高くなる所には置かないでください。発熱、発火、外装の変形や変色、内部電子回路の故障の原因となることがあります。

●火災や故障の原因となりますので、ご自分で分解や改造はしないでください。
なお、改造は電波法違反になります。

●落雷の恐れがあるときは、パソコンの電源を切り、電源プラグを抜いてください。
・落雷により本CF型カードが破損し、発煙、発火の原因となります。

●湯気や水が直接かかる所や湿気の多い場所で使用しないでください。電子回路のショートや腐食による故障の原因となることがあります。

●強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。発熱・発火・破裂や故障の原因となります。

お願い

●保守について
本CF型カードが汚れたときは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。特に汚れのひどいときは、薄めた台所用中性洗剤をつけた柔かい布などで拭き、その後乾いた布で拭き取ってください。
アルコール、ベンジン、シンナー等の薬品は本CF型カードの表面を傷めるおそれがありますので、使用しないでください。
また、化学ぞうきんの使用も避けてください。

●次のような場所での使用は避けてください。
・直射日光の当たる場所、暖房設備やボイラーなどの近く。
・湿気の多い場所や水・油・薬品などがかかる恐れがある場所。
・ゴミやほこりの多い場所、鉄粉、有毒ガスなどが発生する場所。
・製氷倉庫など、特に温度が下がる場所。
・テレビ・ラジオ・無線機など磁気・電波を発生する場所。
・違法電波を受ける場所。

●落としたり強い衝撃を与えないでください。直射日光の当たらない場所でご使用ください。

●本CF型カードは、以下のような使用はできません。
・浴室で使用したり、水の中につけたりしないでください。
・水道水などの流水に直接あてないでください。
・水滴が付いた場合は、なるべく速く乾いた布などで拭き取ってください。
・ぬれたまま、0℃以下になる場所に放置しないでください。
・屋外で使用するときは、直接雨があたらないようにご使用ください。

目次

3 本CF型カードを使う

4 その他の操作

目次

5 困ったときは

6 付録

1　お使いになる前に

1

1 梱包品を確認してください

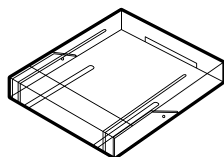
本製品には、以下のものが入っています。お使いになる前にご確認ください。
万一、不足していた場合には、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■本体

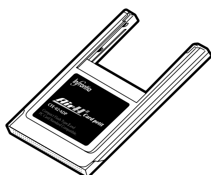


□CF型カード本体（1個）

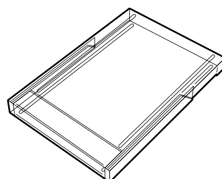
■付属品



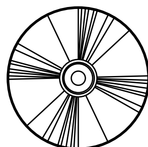
□本体用ケース（1個）



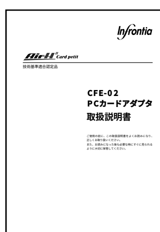
□PCカードアダプタ（1個）



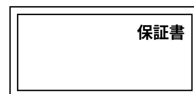
□PCカードアダプタ用ケース（1個）



□CD-ROM（1枚）



□取扱説明書（本書です）（1部）

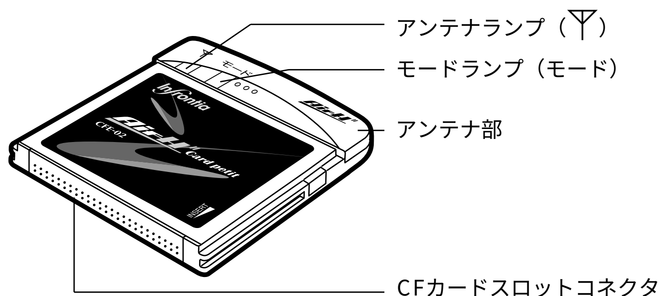


□保証書（1部）

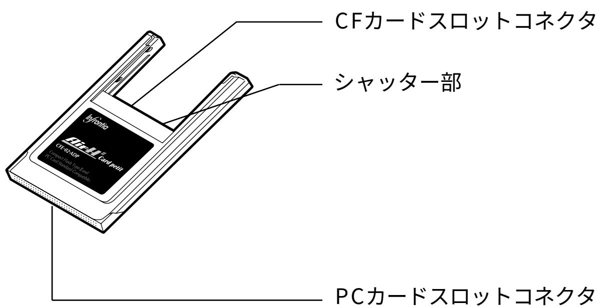
お願い
●ご使用にならないときは、保護のため、付属のケースに入れてください。
●本CF型カードを本体用ケースに入れるときは、CFカードスロットコネクタ側から入れてください。

1 各部の名前と機能

■CF型カード本体



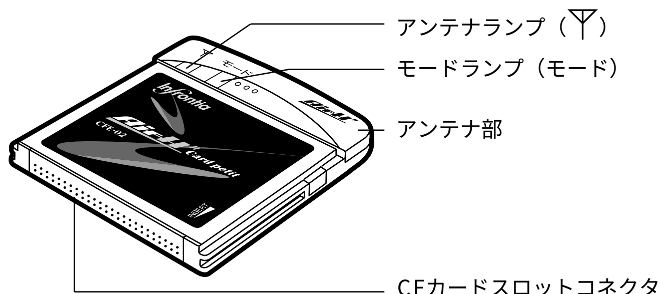
■PCカードアダプタ



1 各部の名前と機能

ランプ表示の見かた

本CF型カードでは、電波の強さや現在の通信状況などの情報を、2つの表示ランプでお知らせします。



■電波の強さ（アンテナランプ）

サービスエリア内の電波状態を、5段階表示でお知らせします。

電波	ランプ	意味
強	点灯（緑）	安定した通信が行えます。
中	点灯（オレンジ）	↑
弱	点灯（赤）	電波の状態を示します。
微弱	点滅（赤）	↓
圏外	消灯	通信はできません。

■通信状況（モードランプ）

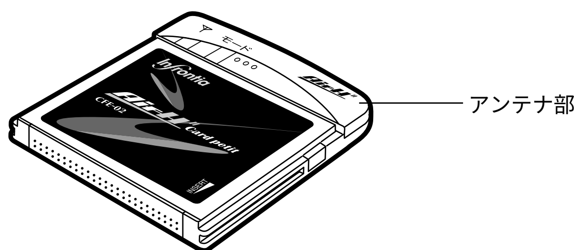
本CF型カードの通信状況をお知らせします。

状態	ランプ	意味
待受中	点灯（緑）	公衆モード、公衆＋家庭モード（家庭圏外）。
	点灯（赤）	家庭モード、公衆＋家庭モード（公衆圏外）。
	点灯（オレンジ）	公衆＋家庭モード（両方圏内）。
	遅い点滅（オレンジ）	公衆＋家庭モード（両方圏外）。
発信中／着信中	速い点滅（緑）	公衆モードで発信中／着信中。
	速い点滅（赤）	家庭モードで発信中／着信中。
	速い点滅（オレンジ）	32kパケット、公衆モードで発信中。
通信中	点滅（緑）	64kPIAFS、公衆モードで通信中。
	点滅（赤）	64kPIAFS、家庭モードで通信中。
	遅い点滅（緑）	32kPIAFS、公衆モードで通信中。
	遅い点滅（赤）	32kPIAFS、家庭モードで通信中。
	点滅（オレンジ）	32kパケット、公衆モードで通信中。
電源OFF	消灯	電源OFF（電源供給がない）。

1 接続できるパソコンは？

本CF型カードは、次の各条件を満たすパソコンやハンドヘルドPC、PDAに接続できます。ご使用になる前にご確認ください。

- **Windows® 95/98/98SE/Me/2000/XP対応のパソコン、およびWindows® CE対応のハンドヘルドPCまたはPDA。**
- **CF+ and Compact Flash Specification Revision 1.4以上に準拠したCFカードスロット TYPEⅡ、またはPC Card Standard 95以上に準拠したPCカードスロット TYPEⅡを持つもの。PCカードスロットの場合は、PCカードアダプタを使用して接続します。**
- **カードスロットが、DC 3.3V電圧に対応しているもの。（DC 5V電圧で動作するパソコンなどでは使用できません。）**
- **カードスロットに挿入した状態で、本CF型カードのアンテナ部が外部に露出するもの。**

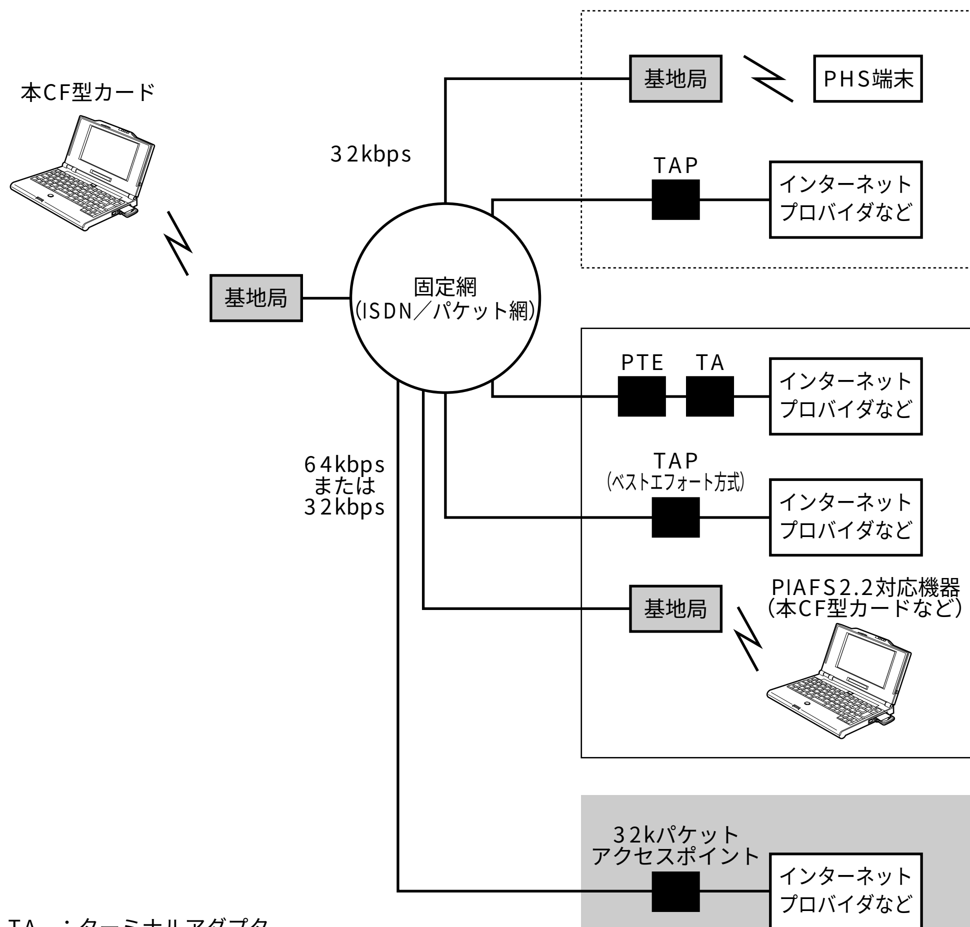


本書ではこれ以降、お使いのパソコンやハンドヘルドPC、PDAなどを、まとめて「パソコン」と呼びます。

お願い
- ●パソコンによっては、上記の各条件を満たしている場合でも、使用できないことがあります。
- ●本CF型カードは、CFメモリカード専用のスロット（TYPEⅠ）にはセットできません。
- ●パソコンのカードスロットがDC3.3V電源に対応しているか、パソコンの取扱説明書で確認してください。
- ●パソコンに対するサポートやOSのバージョンアップなどのサービスに関するお問い合わせは承っておりません。パソコンおよびOSのお取り扱いは、各マニュアルをよく読んで、各メーカーの定める手順に従ってください。

1 通信方式について

本CF型カードで通信するには、接続先の環境などによって、設定方法や通信方式を選択する必要があります。データ通信を始める前に、各通信方式の区別をご理解いただくようお勧めします。



TA　：ターミナルアダプタ
TAP：PIAFS対応のターミナルアダプタ
PTE：プロトコル変換装置

■32kPIAFS方式

PHSデータ通信標準規格の通信方式です。ISDN回線に接続されたPIAFS対応のターミナルアダプタ（TAP）や、PHSを利用した接続先に接続することにより、32kbpsの高速データ通信ができます。

32kPIAFS方式で通信するには：

電話番号に続けて「##3」を付加します。

■64kPIAFS方式（ベストエフォート方式）

DDIポケットが64kbpsデータ通信で採用する方式です。基地局の利用状況によって、64kbpsと32kbpsの通信速度をフレキシブルに選択し、つながりやすく、切れにくい通信環境を実現するものです。ISDN回線に接続されたベストエフォート方式のターミナルアダプタ（TAP）や、本CF型カードをセットしたパソコンに接続することにより、最高64kbpsの高速データ通信が可能です。
また、接続先がベストエフォート方式に対応していない場合には、DDIポケットが提供するPTE（プロトコル変換装置）を利用して、ISDN回線に接続されたターミナルアダプタ（TA）に接続することで、64kbpsの高速通信ができます。

64kPIAFS方式（ベストエフォート方式）で通信するには：

電話番号に続けて「##4」を付加します。

■32kパケット方式

DDIポケットがサービスを行っているパケット通信方式です。情報をパケット（小包）に分割して、パケット単位で情報をやりとりする方式です。下り最大32kbps、上り最大17kbpsでインターネットへの接続が可能です。

32パケット方式で通信するには：

電話番号に続けて「＃＃61」を付加します。

お願い ●本CF型カードは、フレックスチェンジ方式、無線インターネット、無線モデムには対応しておりません。

電話番号の通信方式指定（##n）を省略したいときは

ATコマンド「@Omn」にて、省略したときの通信方式を設定します。

mn=3　：32kPIAFS方式
mn=4　：64kPIAFS方式（ベストエフォート方式）
mn=61：32kパケット方式

注意

- 通信方式の設定を正しく行わないと通信ができません。
- （##n）を省略するときは、必ず「@0mn」を設定する必要があります（工場出荷時の設定で（##n）を省略したときは、通信できません)。
- お客様の契約内容によっては、回線交換方式（32kPIAFS、64kPIAFS）で通信を行う場合に別途通信料金が発生しますのでご注意ください。

お願い

- 本CF型カードは、DDIポケットの「メディア変換機能」を利用した無線モデム方式／FAX方式／インターネット方式による通信はできませんので、ご注意ください。
- 64kPIAFS方式（ベストエフォート方式）で通信するときは、接続先のTAPがベストエフォート方式（PIAFS 2.1準拠）に対応している必要があります。
- 64kPIAFS方式（ベストエフォート方式）でご利用の場合、一部エリアでは64kbpsのデータ通信ができない場合があります（ただし、32kbpsのデータ通信は可能です)。
- 端末間での実際の通信速度（実効通信速度）は、PIAFSによって誤り制御の機能を追加するため、32kPIAFS方式では29.2kbps、64kPIAFS方式では58.4kbpsとなります。
- 32kパケット方式で通信するときは、接続先のTAPが32kパケット方式に対応している必要があります。

2 セットアップする

2

2 セットアップの手順

本CF型カードを使ってデータ通信を行うには、あらかじめ、お使いのパソコンで本CF型カードを使えるようにセットアップする必要があります。
ここでは、インターネットに接続するまでのセットアップ操作の流れと概要について説明しています。実際のセットアップ操作は、以下の各参照先ページで説明されている手順にしたがって、行ってください。

1 パソコンにセットする → 21ページ

本CF型カードをパソコンにセットします。 →21ページ
PCカードアダプタを用いてパソコンにセットします。 →22ページ

2 ドライバをインストールする → 24ページ

本CF型カードをパソコンで使えるようにするための設定です。
お使いのOSによって、インストール方法が異なります。
●Windows® 95の場合 →25ページ
●Windows® 98/98SEの場合 →27ページ
●Windows® Meの場合 →31ページ
●Windows® 2000の場合 →34ページ
●Windows® XPの場合 →38ページ

3 ユーティリティソフトをインストールする → 41ページ

本CF型カードの各種機能を設定するためのソフトウェアをインストールします。
本CF型カードを標準的な設定で利用する場合には、セットアップの後で行うこともできます。

4 インターネットに接続するための設定をする → 42ページ

プロバイダの電話番号やDNSアドレスなど、インターネットに接続するために必要な情報を設定します。これらの情報は、プロバイダから指定されますので、初めてインターネットをご利用になる方は、あらかじめプロバイダに加入して、これらの情報を入手しておいてください。
設定方法は、お使いのOSによって異なります。
●Windows® 95/98/98SE/Meの場合 →43ページ
●Windows® 2000の場合 →49ページ
●Windows® XPの場合 →56ページ
●Windows® CE（Handheld／Pocket PC）の場合 →63ページ

以上の設定が完了すると、プロバイダに接続してインターネットが利用できるようになります。

お願い
●以下の説明では、代表的なOSやソフトウェアを使用しています。使用環境によっては操作手順や表示画面が多少異なる場合があります。
●パソコン／PDAによっては、接続して使用中にパソコン／PDAのスピーカからノイズが発生する可能性がありますが、故障ではありません。

2 パソコンにセットする

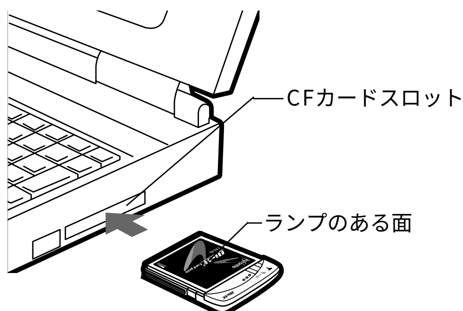
本CF型カードは、パソコンやハンドヘルドPC、PDAのCFカードスロット、またはPCカードスロットにセットして使用することができます。PCカードスロットの場合は、PCカードアダプタを使ってセットします。
パソコンによっては操作方法が異なることがありますので、お使いのパソコンの取扱説明書も、あわせてご覧ください。

CFカードスロットにセットする

1 パソコンの電源を切ります。

2 本CF型カードを、パソコンのCFカードスロットに挿入します。

ランプのある面の向きに注意し、奥までしっかり差し込んでください。



本CF型カードを取り外すときは

あらかじめパソコンの電源を切るか、本CF型カードの動作を停止させる操作が必要です。操作のしかたについては、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。
取り外したあとは、本CF型カードを本体用ケースに入れてください。

お願い

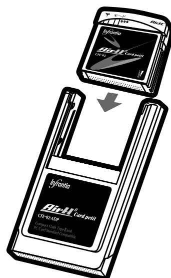
- 本CF型カードの抜き差しは、カードの両端を持ってまっすぐに行ってください。無理な力を加えると、故障の原因となります。
- 本CF型カードをパソコンにセットするときは、パソコンの電源を切った状態で行ってください。

2 パソコンにセットする

PCカードスロットにセットする

1 本CF型カードをPCカードアダプタに挿入します。

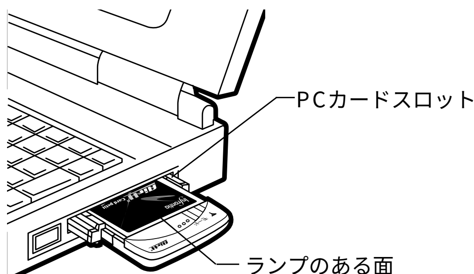
本CF型カードのランプのある面とPCカードアダプタのラベル面をそろえて、PCカードアダプタのガイド溝に合わせ、奥までしっかり差し込んでください。



2 パソコンの電源を切ります。

3 本CF型カードを挿入したPCカードアダプタを、パソコンのPCカードスロットに挿入します。

ランプのある面の向きに注意して、奥までしっかり差し込んでください。



本CF型カードを取り外すときは

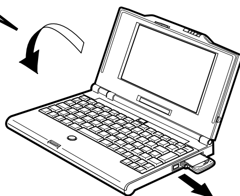
あらかじめパソコンの電源を切るか、本CF型カードの動作を停止させる操作が必要です。操作のしかたについては、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。
本CF型カードをPCカードアダプタから取り外すときは、本CF型カードをまっすぐに引き抜きます。取り外したあとは、本CF型カードとPCカードアダプタをケースに入れてください。

お願い
- 本CF型カードやPCカードアダプタの抜き差しは、カードの両端を持ってまっすぐに行ってください。無理な力を加えると、故障の原因となります。
- 本CF型カードをパソコンにセットするときは、パソコンの電源を切った状態で行ってください。

ノートパソコンおよびWindows® Me搭載パソコンでご利用いただく際のご注意

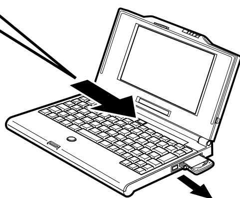
ノートパソコンには、本CF型カードを挿入した状態で、スタンバイ（サスペンド／レジューム）または休止（ハイバネーション）をすると正常の動作をしない機種があります。
そのような機種をお使いの場合、必ず本CF型カードを取り外してから、スタンバイ（サスペンド／レジューム）または休止（ハイバネーション）を行ってください。

※スタンバイや休止をする前に本CF型カードを取り外してください。

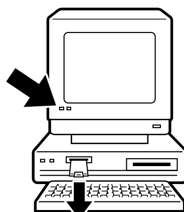


Windows® Me搭載のパソコンには、本CF型カードを挿入した状態で電源の投入や再起動を行うと正常に動作しない機種があります。
そのような機種をお使いの場合、パソコンを起動する前に本CF型カードを取り外してください。

※パソコンを起動する前に、本CF型カードが取り外されていることを確認してください。



Windows Me



Windows Me

2 ドライバをインストールする

本CF型カードをパソコンで使えるようにするための設定です。付属のCD-ROMを使って、ドライバをインストールします。ドライバのインストールが完了すると、本CF型カードをセットするだけで、本CF型カードが使えるようになります。

お使いのOSによって、ドライバのインストール方法が異なります。

●Windows® 95の場合　→25ページ
●Windows® 98/98SEの場合　→27ページ
●Windows® Meの場合　→31ページ
●Windows® 2000の場合　→34ページ
●Windows® XPの場合　→38ページ

お願い

●パソコンのCFカードスロットやPCカードスロットを利用するには、パソコンにPCMCIAドライバがインストールされている必要があります。「コントロールパネル」に「PCMCIA」のアイコンが表示されているか、あらかじめご確認ください。「PCMCIA」のアイコンが表示されていれば、PCMCIAドライバがインストールされています。
「PCMCIA」のアイコンが表示されていない場合には、PCMCIAドライバをインストールしてください。操作方法については、お使いのパソコンのメーカーにお問い合わせください。

●Windows® CEをお使いの場合には、ドライバのインストール操作は必要ありません。本CF型カードをセットするだけで、自動的にドライバのインストールが行われます。

●以下の操作手順では、アイコンなどが「ダブルクリックで開く」ように設定されていることを前提にして説明しています。「シングルクリックで開く」ように設定されている場合は、「ダブルクリック」を「クリック」と読み替えて操作してください。

Windows® 95の場合

1 パソコンの電源を切り、本CF型カードをパソコンにセットします。

→「パソコンにセットする」（21ページ）

2 パソコンの電源を入れます。

Windows® 95が起動し、「新しいハードウェアが検出されました」と表示されます。

3 「デバイスドライバウィザード」ダイアログボックスが表示されたら、付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットし、[次へ] をクリックします。



4 検出されたドライバ名として、「AirH"Card petit CFE-02」が表示されていることを確認し、[完了] をクリックします。

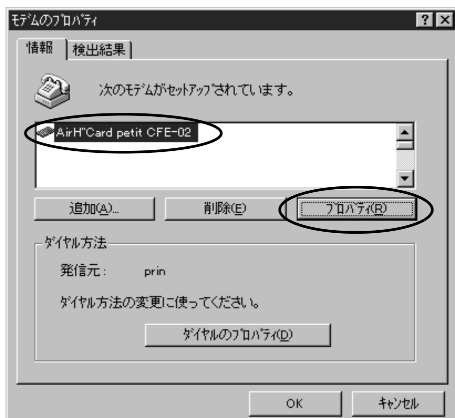


CD-ROMからドライバがインストールされます。
インストールされたら手順5に進んでください。

5 インストールが完了してすべてのダイアログボックスが閉じたら、「コントロールパネル」を開き、「モデム」アイコンをダブルクリックします。

「モデムのプロパティ」ダイアログボックスが開きます。

6 セットアップされているモデムの一覧から「AirH"Card petit CFE-02」を選び、[プロパティ]をクリックします。



「AirH"Card petit CFE-02のプロパティ」ウィンドウが開きます。

7 [最高速度]で「115200」を選択し、[OK]をクリックします。



お願い ●[最高速度]は必ず「115200」に設定してください。この設定は、本CF型カードとパソコン間の通信速度(DTE速度)の設定です。「115200」以外の速度に設定した場合は、正しく動作しません。

8 [閉じる]をクリックして、「モデムのプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。

これで、ドライバのインストールは完了です。

Windows® 98/98SEの場合

1 **パソコンの電源を切り、本CF型カードをパソコンにセットします。**

→「パソコンにセットする」（21ページ）

2 **パソコンの電源を入れます。**

Windows®が起動し、「新しいハードウェアが検出されました」と表示されます。

3 **「新しいハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されたら、付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットし、［次へ］をクリックします。**



4 **［使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨)］を選択し、［次へ］をクリックします。**



5 **［CD-ROMドライブ］のみにチェックマークを付け、［次へ］をクリックします。**



6 **検出されたドライバ名として「AirH"Card petit CFE-02」が表示されていることを確認し、［次へ］をクリックします。**



CD-ROMからドライバがインストールされます。

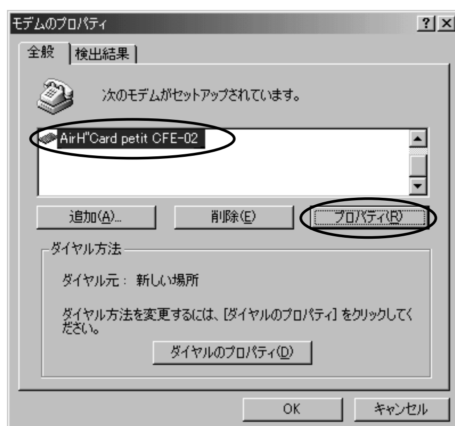
7 インストールされたソフトウェアとして「AirH"Card petit CFE-02」と表示されていることを確認し、[完了] をクリックします。



8 「コントロールパネル」を開き、「モデム」アイコンをダブルクリックします。

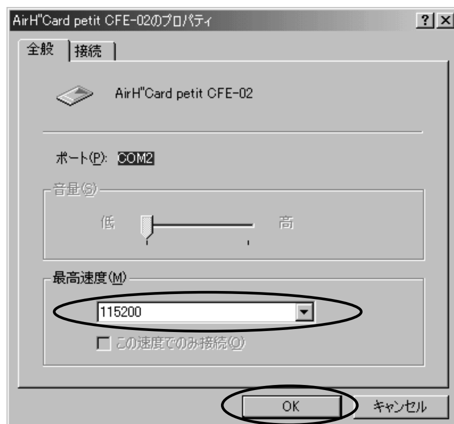
「モデムのプロパティ」ダイアログボックスが開きます。

9 セットアップされているモデムの一覧から「AirH"Card petit CFE-02」を選び、[プロパティ] をクリックします。



「AirH"Card petit CFE-02のプロパティ」ウィンドウが開きます。

10 **[最高速度]で「115200」を選択し、[OK]をクリックします。**



お願い ●[最高速度]は必ず「115200」に設定してください。この設定は、本CF型カードとパソコン間の通信速度(DTE速度)の設定です。「115200」以外の速度に設定した場合は、正しく動作しません。

11 **[閉じる]をクリックして、「モデムのプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。**

これで、ドライバのインストールは完了です。

Windows® Meの場合

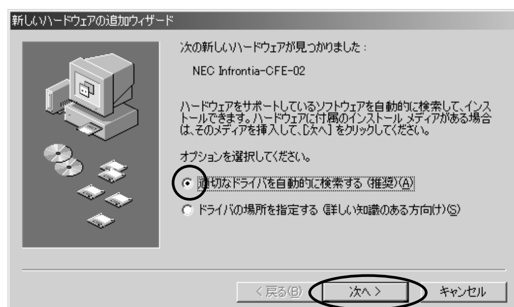
1 パソコンの電源を切り、本CF型カードをパソコンにセットします。

→「パソコンにセットする」(21ページ)

2 パソコンの電源を入れます。

Windows® Meが起動し、「新しいハードウェアが検出されました」と表示されます。

3 「新しいハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されたら、[適切なドライバを自動的に検索する(推奨)]を選択し、付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットして、[次へ]をクリックします。



CD-ROMからドライバがインストールされます。

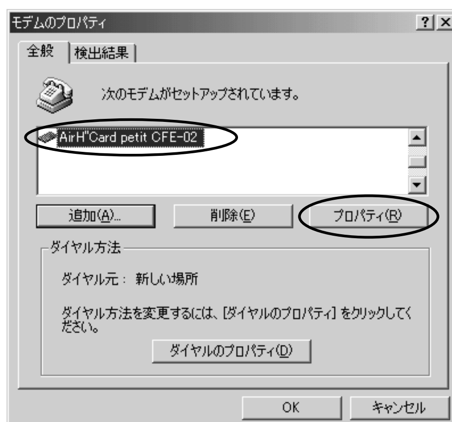
4 インストールされたハードウェアとして「AirH"Card petit CFE-02」と表示されていることを確認し、[完了]をクリックします。



5 「コントロールパネル」を開き、「モデム」アイコンをダブルクリックします。

「モデムのプロパティ」ダイアログボックスが開きます。

6 セットアップされているモデムの一覧から「AirH"Card petit CFE-02」を選び、[プロパティ]をクリックします。



「AirH"Card petit CFE-02のプロパティ」ウィンドウが開きます。

7 [最高速度]で「115200」を選択し、[OK]をクリックします。



お願い

- 「コントロールパネル」に「モデム」アイコンが表示されていない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックしてください。
- [最高速度]は必ず「115200」に設定してください。この設定は、本CF型カードとパソコン間の通信速度（DTE速度）の設定です。「115200」以外の速度に設定した場合は、正しく動作しません。
- Windows® Me搭載のパソコンには、本CF型カードを挿入した状態で電源の投入や再起動を行うと正常に動作しない機種があります。そのような機種をお使いの場合は、パソコンを起動する前に本CF型カードを取り外してください（→23ページ）。

8 [閉じる]をクリックして、「モデムのプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。

これで、ドライバのインストールは完了です。

2 ドライバをインストールする

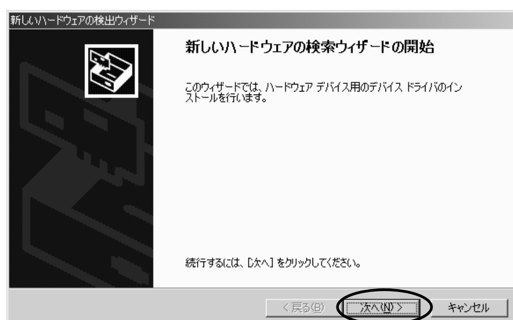
Windows® 2000の場合

1 **パソコンの電源を切り、本CF型カードをパソコンにセットします。**

→「パソコンにセットする」（21ページ）

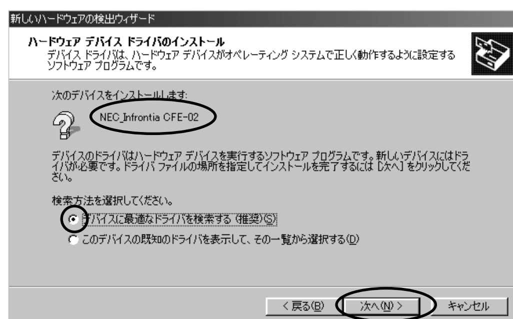
2 **パソコンの電源を入れます。**

Windows® 2000が起動し、「新しいハードウェアが見つかりました」と表示されたあと、「新しいハードウェアの検出ウィザードの開始」という画面が表示されます。

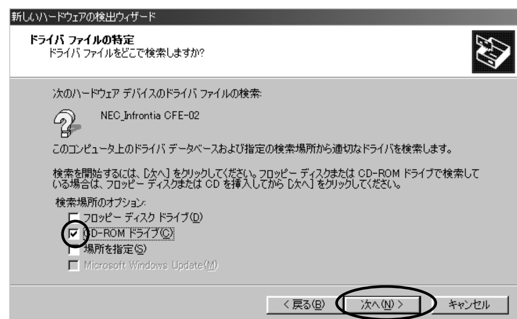


3 **[次へ] をクリックします。**

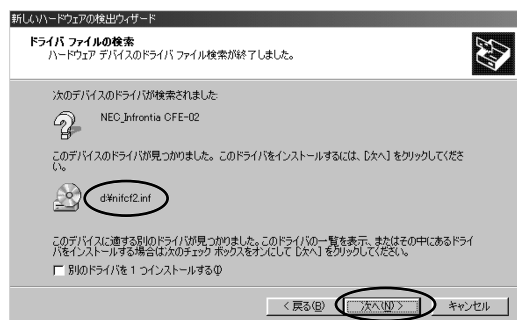
4 **インストールするデバイスとして「NEC_Infrontia CFE-02」と表示されていることを確認し、[デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）] を選択して、[次へ] をクリックします。**



5 **［CD-ROMドライブ］のみにチェックマークを付け、付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットして、［次へ］をクリックします。**



6 **見つかったドライバとして「d:\nifcf2.inf」と表示されていることを確認し、［次へ］をクリックします。**

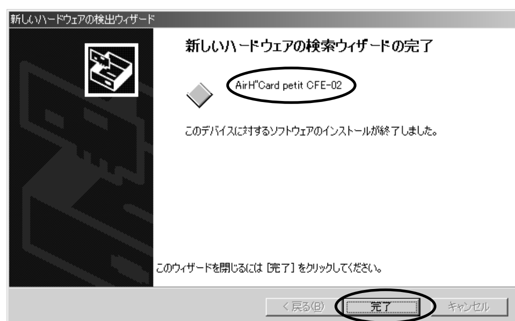


CD-ROMからドライバがインストールされます。

「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面が表示されたときは、［はい］をクリックしてください。

2 ドライバをインストールする

7 **インストールされたソフトウェアとして「AirH"Card petit CFE-02」と表示されていることを確認し、［完了］をクリックします。**



8 **「コントロールパネル」を開き、「電話とモデムのオプション」アイコンをダブルクリックします。**

「電話とモデムのオプション」ダイアログボックスが開きます。

9 **「モデム」タブをクリックして、インストールされているモデムの一覧から「AirH"Card petit CFE-02」を選び、［プロパティ］をクリックします。**



「AirH"Card petit CFE-02のプロパティ」ウィンドウが開きます。

10 ［ポートの最高速度］で「115200」を選択し、［OK］をクリックします。



お願い　●［ポートの最高速度］は必ず「115200」に設定してください。この設定は、本CF型カードとパソコン間の通信速度（DTE速度）の設定です。「115200」以外の速度に設定した場合は、正しく動作しません。

11 ［OK］をクリックして、「電話とモデムのオプション」ダイアログボックスを閉じます。

これで、ドライバのインストールは完了です。

2 ドライバをインストールする

Windows® XPの場合

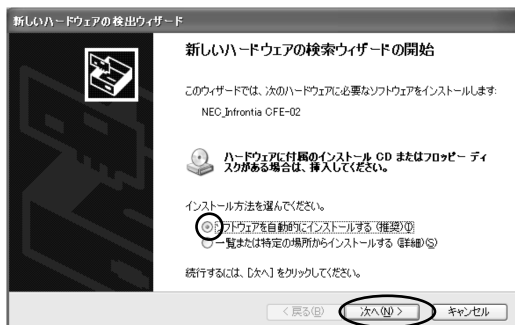
1 パソコンの電源を切り、本CF型カードをパソコンにセットします。

→「パソコンにセットする」（21ページ）

2 パソコンの電源を入れます。

Windows® XPが起動し、「新しいハードウェアが検出されました」と表示されます。

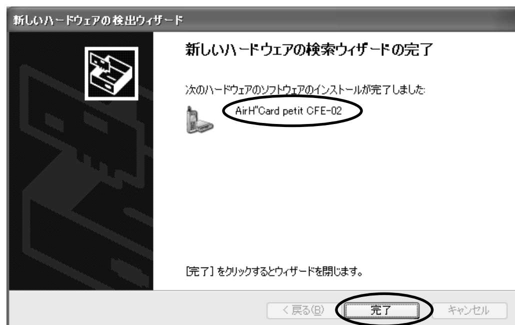
3 「新しいハードウェアの検出ウィザード」ダイアログボックスが表示されたら、［ソフトウェアを自動的にインストールする（推奨)］を選択し、付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットして、［次へ］をクリックします。



CD-ROMからドライバがインストールされます。

「⚠ このハードウェア…」という画面が表示されたときは、「続行」をクリックしてください。

4 インストールされたハードウェアとして「AirH"Card petit CFE-02」と表示されていることを確認し、［完了］をクリックします。



5 「コントロールパネル」を開き、「電話とモデムのオプション」アイコンをダブルクリックします。

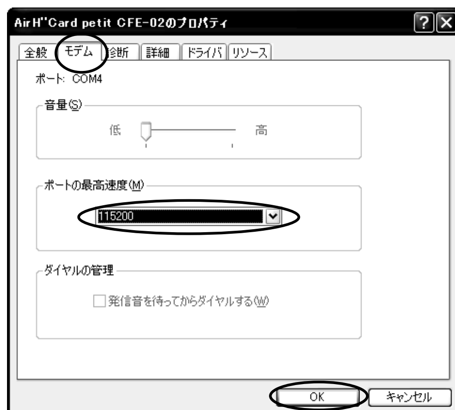
「電話とモデムのオプション」ダイアログボックスが開きます。

6 「モデム」のタブをクリックして、セットアップされているモデムの一覧から「AirH"Card petit CFE-02」を選び、［プロパティ］をクリックします。



「AirH"Card petit CFE-02のプロパティ」ウィンドウが開きます。

7 「モデム」のタブをクリックして、［最高速度］で「115200」を選択し、［OK］をクリックします。



お願い

- ●コントロールパネルに「電話とモデムのオプション」アイコンが表示されていない場合は、「クラシック表示に切り替える」をクリックしてください。
- ●[最高速度] は必ず「115200」に設定してください。この設定は、本CF型カードとパソコン間の通信速度（DTE速度）の設定です。「115200」以外の速度に設定した場合は、正しく動作しません。

8 [OK] をクリックして、「電話とモデムのオプション」ダイアログボックスを閉じます。

これで、ドライバのインストールは完了です。

2 ユーティリティソフトをインストールする

ユーティリティソフトは、本CF型カードの詳細機能を設定するためのソフトウェアです。付属のCD-ROMからインストールすることができます。

Windows® 95/98/98SE/Me/2000/XPにインストールする場合

付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットし、[スタート] メニューの [ファイル名を指定して実行] で「E:\CFE02 UTL_I.exe」と入力して、[OK] をクリックします。(CD-ROMドライブがE:\の場合)
このあとの操作については、表示されるメッセージに従ってください。

お願い

- ここでは、概要のみを説明しています。インストール手順の詳しい情報については、付属のCD-ROM内の「Readme.txt」をご覧ください。
- 本CF型カードを標準的な設定で使用する場合には、ユーティリティソフトのインストールは、あとから必要に応じて行うこともできます。
- Windows® CEのユーティリティソフトは付属していません。詳細機能を設定する場合には、ATコマンドをお使いください(→81、83ページ)。
- このユーティリティソフトを利用することで、ドライバが正常にインストールされていることが判断されます。

2 インターネットに接続するための設定をする

インターネットに接続するには、あらかじめプロバイダの電話番号やDNSアドレスなどの情報をパソコンに設定しておく必要があります。
これらの情報は、プロバイダから指定されますので、初めてインターネットをご利用になる方は、あらかじめプロバイダに加入して、これらの情報を入手しておいてください。

情報の設定方法は、お使いのOSによって異なります。

●Windows® 95/98/98SE/Meの場合　→43ページ
●Windows® 2000の場合　→49ページ
●Windows® XPの場合　→56ページ
●Windows® CE（Handheld／Pocket PC）の場合　→63ページ

お願い　●各プロバイダは、地域や通信方式に応じて複数のアクセスポイント（接続先）を用意しています。あらかじめご契約のプロバイダからアクセスポイントについての情報を入手し、本CF型カードで接続できる通信方式のアクセスポイントを選択して、電話番号などの情報を確認してください。

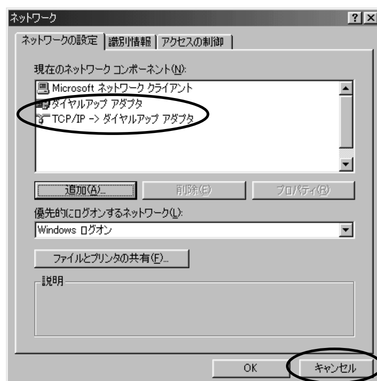
Windows® 95/98/98SE/Meの場合

インターネットなどのネットワークに接続するには、「ダイヤルアップネットワーク」を利用します。あらかじめ、［スタート］メニューから、［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］（Windows® 95では、［プログラム］→［アクセサリ］）と選択し、［ダイヤルアップネットワーク］が表示されているか、ご確認ください。
［ダイヤルアップネットワーク］が表示されている場合には、以下の手順に進みます。

お願い
- ダイヤルアップネットワークがインストールされていない場合には、Windows®のヘルプをご覧になり、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」から［Windowsファイル］→「通信」→［詳細］と選択して、インストールしてください。
- ここでは、Windows® Meの操作画面を使って説明しています。Windows® 95やWindows® 98で操作が異なる場合には、その手順の中で説明します。

1 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。

「ネットワーク」ダイアログボックスが表示されます。



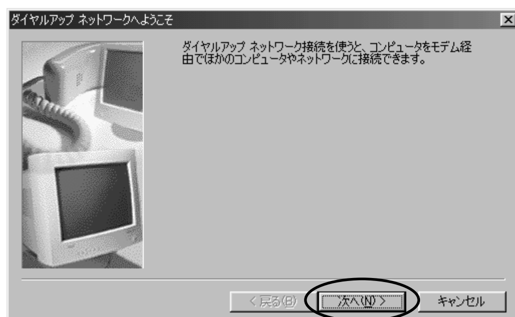
［現在のネットワークコンポーネント］の一覧に、「ダイヤルアップアダプタ」と「TCP/IP −>ダイヤルアップアダプタ」が表示されていることを確認してください。
確認できたら、［キャンセル］をクリックしてダイアログボックスを閉じてください。

2 インターネットに接続するための設定をする

お願い
●「ダイヤルアップアダプタ」が表示されていない場合には［追加］をクリックし、「アダプタ」を選択して［追加］をクリックし、［製造元］に「Microsoft」を選択して「ダイヤルアップアダプタ」をインストールします。
●「TCP/IP —> ××××」または「TCP/IP」が表示されていない場合には［追加］をクリックし、「プロトコル」を選択して［追加］をクリックし、［製造元］に「Microsoft」を選択して「TCP/IP」をインストールします。
●「TCP/IP —> ダイヤルアップアダプタ」が表示されていない場合には、「ダイヤルアップアダプタ」をダブルクリックし、［バインド］タブで「TCP/IP —> ダイヤルアップアダプタ」にチェックマークを付けて［OK］をクリックします。
●上記の変更操作を行った場合には、「ネットワーク」ダイアログボックスで［OK］をクリックし、その後Windows®を再起動してください。

2 ［スタート］メニューから、［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］（Windows® 95の場合は、［プログラム］→［アクセサリ]）と選択し、［ダイヤルアップネットワーク］をクリックします。

「ダイヤルアップネットワークへようこそ」ダイアログボックスが表示されたら、［次へ］をクリックします。



お願い
●「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウのみが表示されたときは、「新しい接続」アイコンをダブルクリックして手順3に進んでください。

3 ［接続名］にプロバイダの名称や通信方式などの分かりやすい名前（例：ABCD-PIAFS）を入力し、［モデムの選択］で「AirH"Card petit CFE-02」を選択して、［次へ］をクリックします。



4 接続先のアクセスポイントの電話番号を入力して、［次へ］をクリックします。

各入力欄には、次のように入力してください。

「市外局番」： 空白にしておきます。

「電話番号」： 選択したアクセスポイントの電話番号を、通信方式に応じて次のように半角文字で入力します。電話番号は市外局番から指定してください。

例）電話番号が「012-345-6789」のとき

32kPIAFS方式の場合：	012-345-6789##3
64kPIAFS方式の場合：	012-345-6789##4
64kPIAFS方式（PTE経由）の場合：	1695##4＊012-345-6789
32kパケット方式の場合：	012-345-6789##61

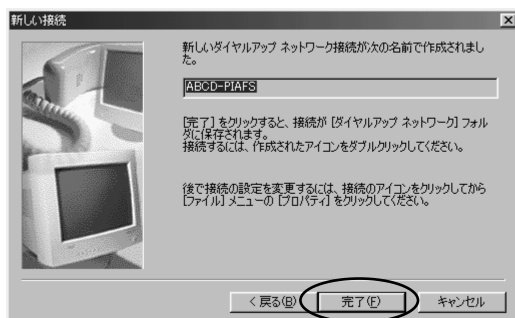
「国番号」： 「日本（81）」を選択します。



入力した内容を確認してから、［次へ］をクリックしてください。

お願い ●ご利用の料金コースに合わせた通信方式をお選びください。詳しくは、DDIポケットにお問い合わせください。

5 ［完了］をクリックします。

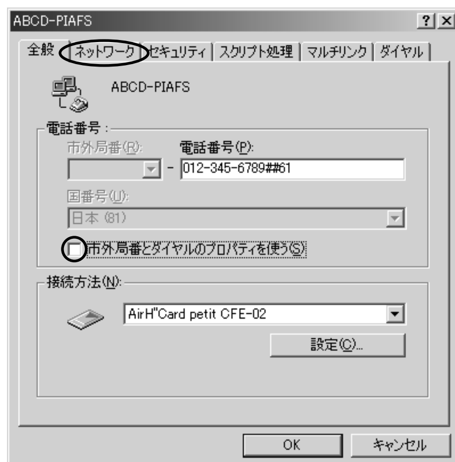


「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウに、作成した接続用のアイコンが表示されます。

6 「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウで、作成した接続用のアイコンをクリックして選択し、［ファイル］メニュー　→［プロパティ］をクリックします。

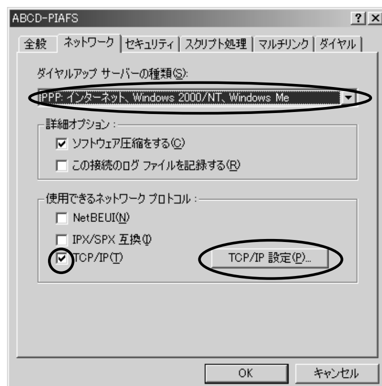


7 ［市外局番とダイヤルのプロパティを使う］（Windows® 95では［国番号と市外局番を使う］）のチェックマークを外し、［ネットワーク］タブ（Windows® 95/98/98SEでは［サーバーの種類］タブ）をクリックします。



8 次のように設定してから、［TCP/IP設定］をクリックします。

［ダイヤルアップサーバーの種類］：「PPP:」で始まる項目を選択します。
［詳細オプション］：詳細オプションの設定は、プロバイダの指示に従ってください。
［使用できるネットワークプロトコル］：
［TCP/IP］のみにチェックマークを付けます。その他の項目については、プロバイダからの指示がない限り、チェックマークを付けないでください。

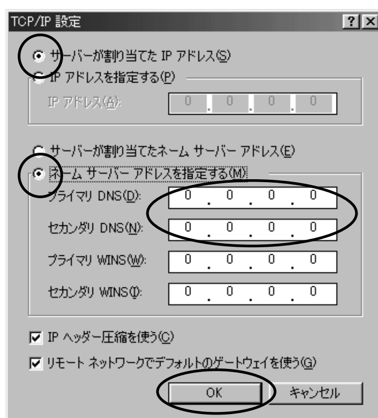


設定した内容を確認してから、［TCP/IP設定］をクリックしてください。

9 プロバイダの指示に従って各項目を設定してから、［OK］をクリックします。

一般的には、次のように設定してください。

- ［サーバーが割り当てたIPアドレス］を選択します。
- ［ネームサーバーアドレスを指定する］を選択し、プロバイダから指定されたDNSアドレスを入力します。入力する項目については、プロバイダの指示に従ってください。
- ［IPヘッダー圧縮を使う］と［リモートネットワークでデフォルトのゲートウェイを使う］の設定は、プロバイダの指示に従ってください。



設定した内容を確認してから、［OK］をクリックしてください。手順8の画面に戻ります。

10 ［OK］をクリックします。

ダイアログボックスが閉じます。

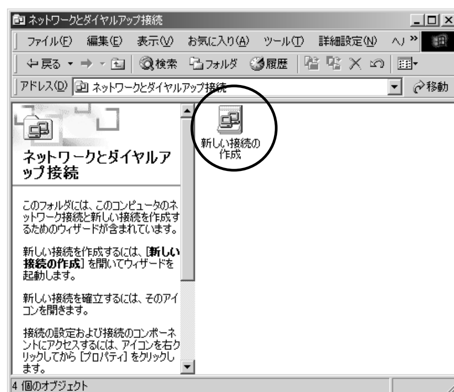
これで、インターネットに接続するための設定は完了です。続いてインターネットに接続するには、「インターネットに接続する」（→68ページ）をご覧ください。

Windows® 2000の場合

インターネットなどのネットワークに接続するには、「ネットワークとダイヤルアップ接続」を利用します。

お願い　●「ネットワークとダイヤルアップ接続」がインストールされていない場合には、Windows® 2000のヘルプをご覧になってインストールしてください。

1 ［スタート］メニューから、［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］と選択して、［ネットワークとダイヤルアップ接続］をクリックし、「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウの「新しい接続の作成」アイコンをダブルクリックします。

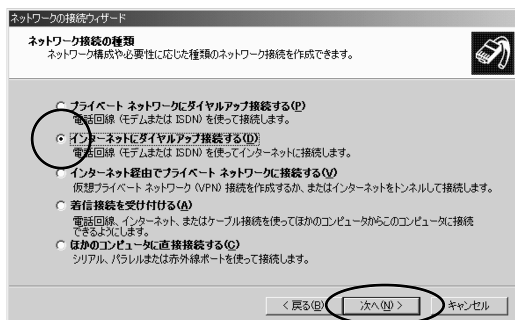


「ネットワークの接続ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

2 ［次へ］をクリックします。

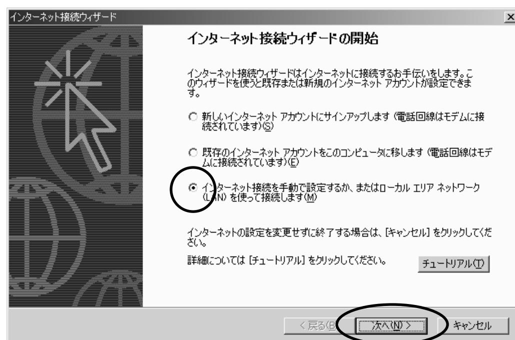


3 ［インターネットにダイヤルアップ接続する］を選択して、［次へ］をクリックします。

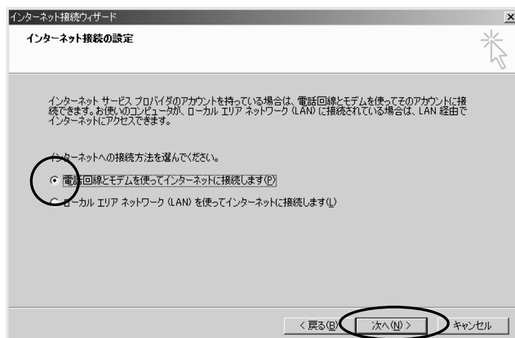


「インターネット接続ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

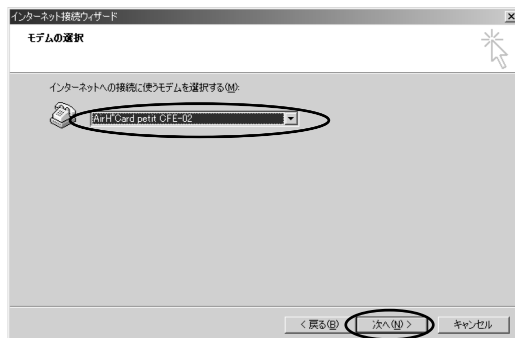
4 ［インターネット接続を手動で設定するか、…］を選択して、［次へ］をクリックします。



5 ［電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します］を選択して、［次へ］をクリックします。



6 **次の画面が表示された場合は、［インターネットへの接続に使うモデムを選択する］で「AirH"Card petit CFE-02」を選択して、［次へ］をクリックします。**



7 **接続先のアクセスポイントの電話番号を入力して、［次へ］をクリックします。**

各入力欄には、次のように入力してください。

「市外局番」： 空白にしておきます。

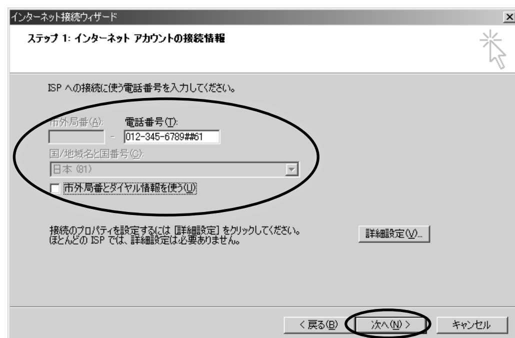
「電話番号」： 選択したアクセスポイントの電話番号を、通信方式に応じて次のように半角文字で入力します。電話番号は市外局番から指定してください。

例）電話番号が「012-345-6789」のとき

32kPIAFS方式の場合：	012-345-6789##3
64kPIAFS方式の場合：	012-345-6789##4
64kPIAFS方式（PTE経由）の場合：	1695##4＊012-345-6789
32kパケット方式の場合：	012-345-6789##61

「国番号」： 「日本（81）」を選択します。

「市外局番とダイヤル情報を使う」： チェックマークを外します。



入力した内容を確認してから、［次へ］をクリックしてください。

お願い ●ご利用の料金コースに合わせた通信方式をお選びください。詳しくは、DDIポケットにお問い合わせください。

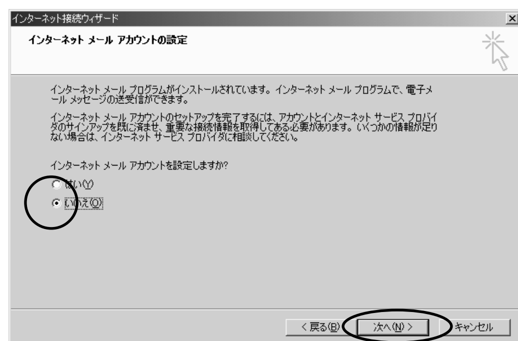
8 ［ユーザー名］と［パスワード］にプロバイダから指定されたユーザーIDとパスワードを入力し、［次へ］をクリックします。

お願い ●「ユーザー名」とは、プロバイダから指定されるユーザー識別用のIDコードのことです。プロバイダによっては、「ユーザーID」「ログインID」「アカウント名」などと呼ばれています。

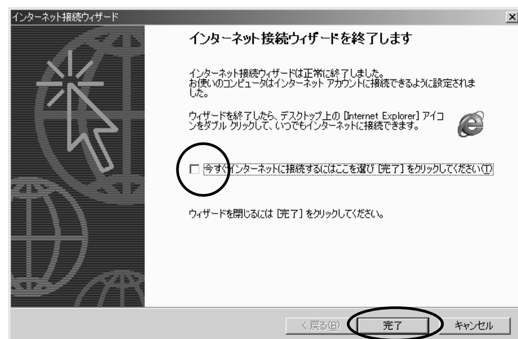
9 ［接続名］にプロバイダの名称や通信方式などの分かりやすい名前（例：ABCD-PIAFS）を入力し、［次へ］をクリックします。

10 ［いいえ］を選択し、［次へ］をクリックします。

メールアカウントについては、あとから設定することができます。（本書では省略します）

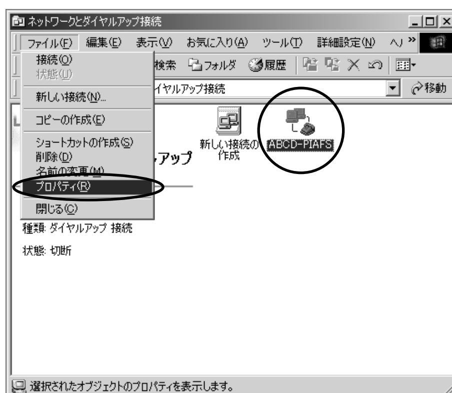


11 ［今すぐインターネットに接続するにはここを選び…］のチェックマークを外し、［完了］をクリックします。

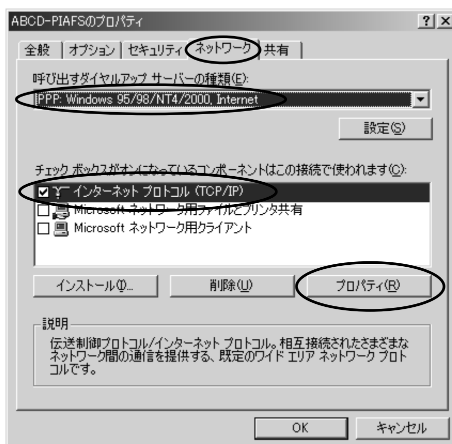


「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウに、作成した接続用のアイコンが表示されます。

12 **作成した接続用のアイコンをクリックして選択し、［ファイル］メニュー →［プロパティ］をクリックします。**



13 **［ネットワーク］タブをクリックし、［呼び出すダイヤルアップサーバーの種類］で「PPP:」で始まる項目を選択し、コンポーネントのリストで「インターネットプロトコル（TCP/IP）」のみにチェックマークを付けて、［プロパティ］をクリックします。**

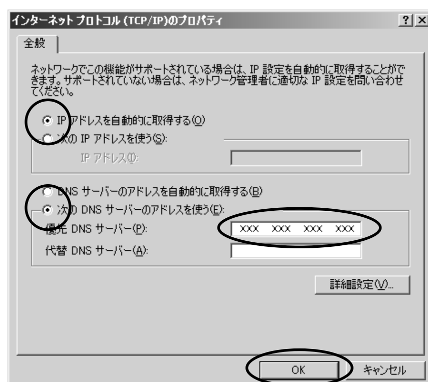


「インターネットプロトコル（TCP/IP）」以外のリスト項目については、プロバイダからの指示がない限り、チェックマークを付けないでください。
「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択した状態で、［プロパティ］をクリックしてください。

14 プロバイダの指示に従って各項目を設定し、[OK] をクリックします。

一般的には、次のように設定してください。

- [IPアドレスを自動的に取得する] を選択します。
- [次のDNSサーバーのアドレスを使う] を選択し、プロバイダから指定されたDNSアドレスを入力します。入力する項目については、プロバイダの指示に従ってください。
- [詳細設定] の設定内容については、プロバイダの指示に従ってください。



設定した内容を確認してから、[OK] をクリックしてください。
手順13の画面に戻ります。

お願い ●32kパケット方式でうまく接続できない場合は、[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する] を選択してください。

15 各ダイアログボックスの [OK] をクリックして閉じます。

これで、インターネットに接続するための設定は完了です。続いてインターネットに接続するには、「インターネットに接続する」(→70ページ)をご覧ください。

2　インターネットに接続するための設定をする

Windows® XPの場合

インターネットなどのネットワークに接続するには、「ネットワーク接続」を利用します。

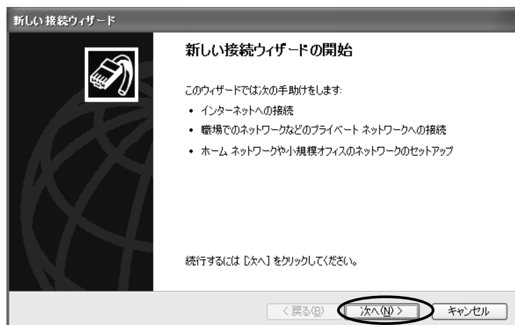
お願い　●「ネットワーク接続」がインストールされていない場合には、Windows® XPのヘルプをご覧になってインストールしてください。

1　**［スタート］メニューから、［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］と選択して、［ネットワーク接続］をクリックし、「ネットワーク接続」ウィンドウの「ネットワークタスク」の「新しい接続を作成する」アイコンをクリックします。**

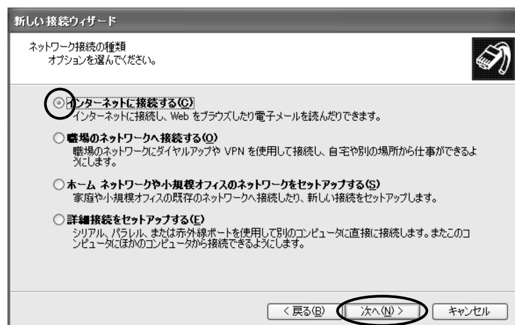


「新しい接続ガイド」ダイアログボックスが表示されます。

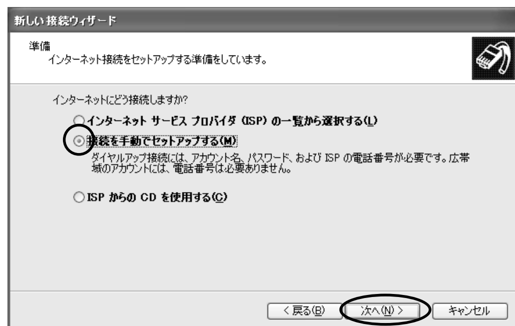
2　**［次へ］をクリックします。**



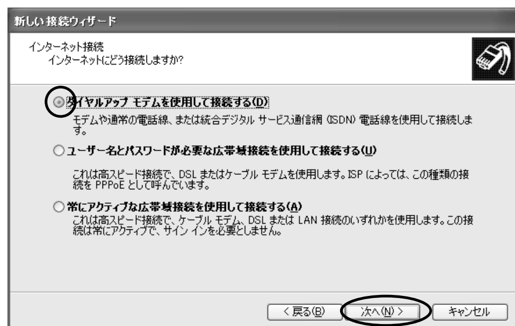
3 ［インターネットに接続する］を選択して、［次へ］をクリックします。



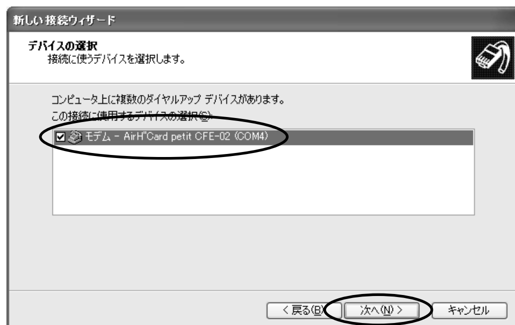
4 ［接続を手動でセットアップする］を選択して、［次へ］をクリックします。



5 ［ダイヤルアップモデムを使用して接続する］を選択して、［次へ］をクリックします。

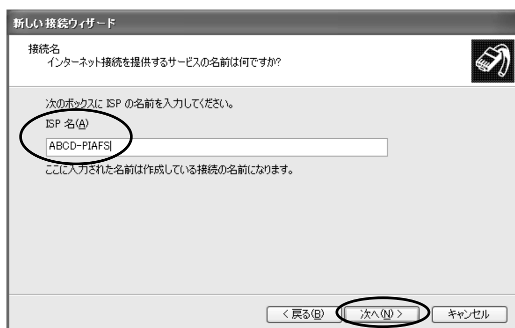


6 **次の画面が表示された場合は、「AirH"Card petit CFE-02」を選択して、[次へ]をクリックします。**



お願い ●パソコンによっては、自動的に選択されることがあります。その場合、上記画面は表示されず、手順7へ進みます。

7 **[接続名]にプロバイダの名称や通信方式などの分かりやすい名前(例:ABCD-PIAFS)を入力し、[次へ]をクリックします。**



8 接続先のアクセスポイントの電話番号を入力して、[次へ] をクリックします。

選択したアクセスポイントの電話番号を、通信方式に応じて次のように半角文字で入力します。電話番号は市外局番から指定してください。

例）電話番号が「012-345-6789」のとき

32kPIAFS方式の場合：	012-345-6789##3
64kPIAFS方式の場合：	012-345-6789##4
64kPIAFS方式（PTE経由）の場合：	1695##4✱012-345-6789
32kパケット方式の場合：	012-345-6789##61

新しい接続ウィザード
ダイヤルする電話番号
ISP の電話番号を指定してください。
下に電話番号を入力してください。
電話番号(P):
012-345-6789##61
識別番号または市外局番が必要な場合があります。よくわからないときは、電話でその電話番号にダイヤルしてください。モデムの音が聞こえる場合はダイヤルしたその番号が正解です。
< 戻る(B)　次へ(N) >　キャンセル

入力した内容を確認してから、[次へ] をクリックしてください。

お願い ●ご利用の料金コースに合わせた通信方式をお選びください。詳しくは、DDIポケットにお問い合わせください。

9 **［ユーザー名］と［パスワード］にプロバイダから指定されたユーザーIDとパスワードを入力し、［次へ］をクリックします。**

新しい接続ウィザード
インターネット アカウント情報
インターネット アカウントにサインインするにはアカウント名とパスワードが必要です。
ISP アカウント名およびパスワードを入力し、この情報を書き留めてから安全な場所に保管してください。(既存のアカウント名またはパスワードを忘れてしまった場合は、ISP に問い合わせてください。)
ユーザー名(U): ABCD
パスワード(P):
パスワードの確認入力(C):
このコンピュータからインターネットに接続するときは、だれでもこのアカウント名およびパスワードを使用する(S)
この接続を既定のインターネット接続とする(M)
この接続のインターネット接続ファイアウォールをオンにする(T)
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

お願い ●「ユーザー名」とは、プロバイダから指定されるユーザー識別用のIDコードのことです。プロバイダによっては、「ユーザーID」「ログインID」「アカウント名」などと呼ばれています。

10 **［完了］をクリックします。**

新しい接続ウィザード
新しい接続ウィザードの完了
次の接続の作成に必要な手順は正常に完了しました。
ABCD-PIAFS
• 既定の接続にする
• この接続はファイアウォールを使用しています
• このコンピュータのすべてのユーザーと共有する
• すべての人に同じユーザー名とパスワードを使用する
この接続は、[ネットワーク接続] フォルダに保存されます。
この接続へのショートカットをデスクトップに追加する(S)
接続を作成してウィザードを閉じるには、[完了] をクリックしてください。
< 戻る(B) 完了 キャンセル

「ネットワーク接続」ウィンドウに、作成した接続用のアイコンが表示されます。

11 **作成した接続用のアイコンをクリックして選択し、［ファイル］メニュー　→［プロパティ］をクリックします。**



12 **［ネットワーク］タブをクリックして、［呼び出すダイヤルアップサーバーの種類］で「PPP:」で始まる項目を選択し、コンポーネントのリストで「インターネットプロトコル（TCP/IP）」のみにチェックマークを付けて、［プロパティ］をクリックします。**

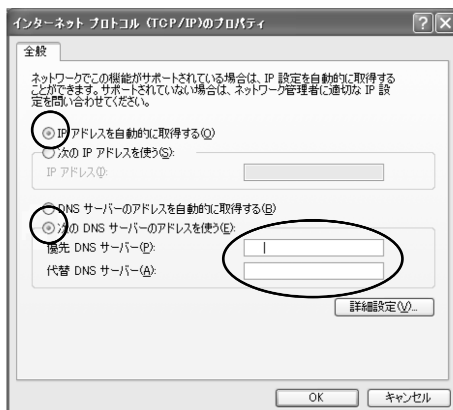


「インターネットプロトコル（TCP/IP）」以外のリスト項目については、プロバイダからの指示がない限り、チェックマークを付けないでください。
「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択した状態で、［プロパティ］をクリックしてください。

13 プロバイダの指示に従って各項目を設定し、［OK］をクリックします。

一般的には、次のように設定してください。

- ［IPアドレスを自動的に取得する］を選択します。
- ［次のDNSサーバーのアドレスを使う］を選択し、プロバイダから指定されたDNSアドレスを入力します。入力する項目については、プロバイダの指示に従ってください。
- ［詳細設定］の設定内容については、プロバイダの指示に従ってください。



設定した内容を確認してから、［OK］をクリックしてください。
手順12の画面に戻ります。

14 各ダイアログボックスを［OK］をクリックして閉じます。

これで、インターネットに接続するための設定は完了です。続いてインターネットに接続するには、「インターネットに接続する」（→71ページ）をご覧ください。

Windows® CE（Handheld／Pocket PC）の場合

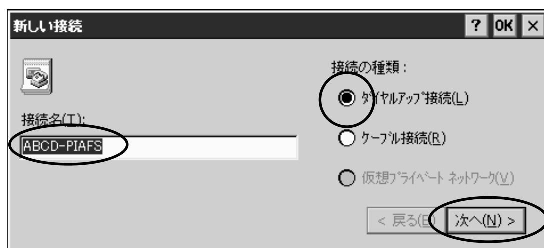
インターネットなどのネットワークに接続するには、「リモートネットワーク」を利用します。
ここでは、Windows® Powered Handheld PC 2000の画面で説明します。

お願い ●Windows® CEをタッチペンなどで操作される場合には､「クリック」は「タップ」､「ダブルクリック」は「ダブルタップ」などと読み替えて操作してください。

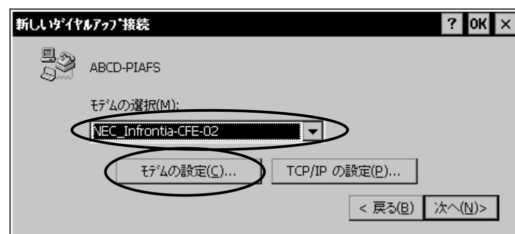
1 ［スタート］メニューから［プログラム］→［通信］と選択し、［リモートネットワーク］をクリックして、「リモートネットワーク」ウィンドウの「新しい接続」アイコンをダブルクリックします。

「新しい接続」ダイアログボックスが表示されます。

2 ［接続名］にプロバイダの名称や通信方式などの分かりやすい名前（例：ABCD-PIAFS）を入力し、［接続の種類］で［ダイヤルアップ接続］を選択して、［次へ］をクリックします。

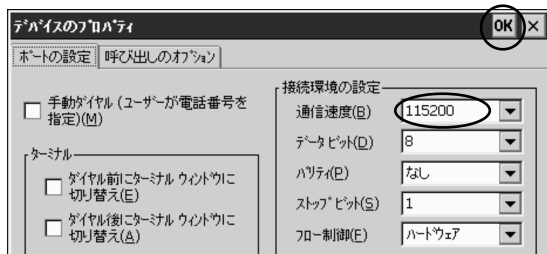


3 ［モデムの選択］で「NEC_Infrontia CFE-02」を選択し、［モデムの設定］をクリックします。



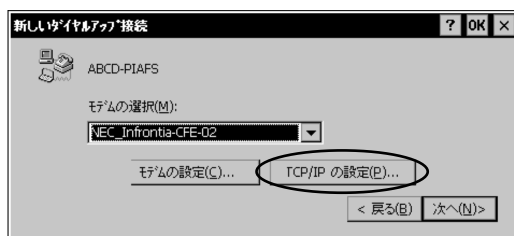
「デバイスのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

4 ［通信速度］で「115200」を選択し、［OK］をクリックします。



お願い ●［通信速度］は必ず「115200」に設定してください。この設定は、本CF型カードとパソコン間の通信速度（DTE速度）の設定です。「115200」以外の速度に設定した場合は、正しく動作しません。

5 「新しいダイヤルアップ接続」ダイアログボックスに戻ったら、［TCP/IPの設定］をクリックします。

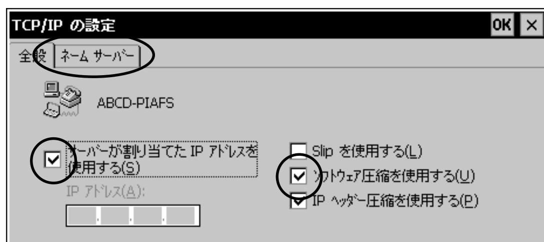


「TCP/IPの設定」ダイアログボックスが表示されます。

6 プロバイダの指示に従って各項目を設定してから、［ネームサーバー］タブをクリックします。

一般的には、次のように設定してください。

- ［サーバーが割り当てたIPアドレスを使用する］にチェックマークを付けます。
- ［ソフトウェア圧縮を使用する］にチェックマークを付けます。
- その他の項目については、プロバイダからの指示に従ってください。

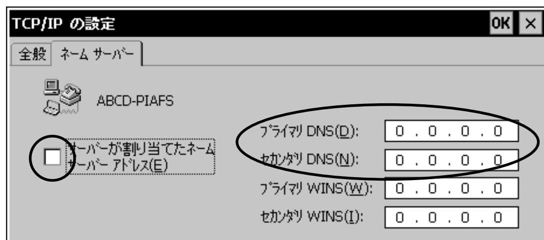


設定した内容を確認してから、［ネームサーバー］タブをクリックしてください。

7 プロバイダの指示に従って各項目を設定してから、［OK］をクリックします。

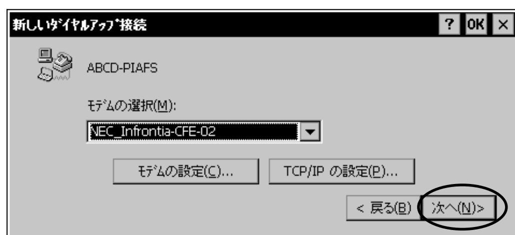
一般的には、次のように設定してください。

- ［サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス］のチェックマークを外します。
- プロバイダから指定されたDNSアドレスを入力します。入力する項目については、プロバイダの指示に従ってください。



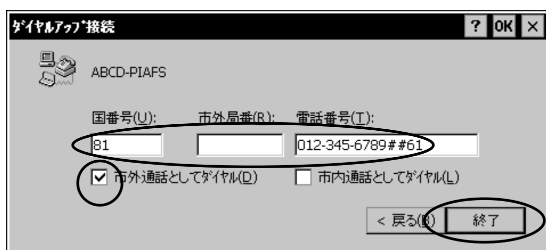
設定した内容を確認してから、［OK］をクリックしてください。

8 「新しいダイヤルアップ接続」ダイアログボックスに戻ったら、［次へ］をクリックします。



9 接続先のアクセスポイントの電話番号を入力して、［終了］をクリックします。

各入力欄には、次のように入力してください。
「国番号」：　「81」のままにしておきます。
「市外局番」：　空白にしておきます。
「電話番号」：　選択したアクセスポイントの電話番号を、通信方式に応じて次のように半角文字で入力します。電話番号は市外局番から指定してください。
例）電話番号が「012-345-6789」のとき
32kPIAFS方式の場合：　012-345-6789##3
64kPIAFS方式の場合：　012-345-6789##4
64kPIAFS方式（PTE経由）の場合：　1695##4＊012-345-6789
32kパケット方式の場合：　012-345-6789##61
「市外通話としてダイヤル」：チェックマークを付けます。
「市内通話としてダイヤル」：チェックマークを外します。



入力した内容を確認してから、［終了］をクリックしてください。「リモートネットワーク」ウィンドウに、作成した接続用のアイコンが表示されます。

お願い　●ご利用の料金コースに合わせた通信方式をお選びください。詳しくは、DDIポケットにお問い合わせください。

これで、インターネットに接続するための設定は完了です。続いてインターネットに接続するには、「インターネットに接続する」（→72ページ）をご覧ください。

3 本CF型カードを使う

3 インターネットに接続する

セットアップの操作がすべて完了すると、インターネットに接続することができます。接続するときは、プロバイダから指定されたユーザーIDと接続用のパスワードが必要です。あらかじめご確認ください。

接続方法は、お使いのOSによって異なります。

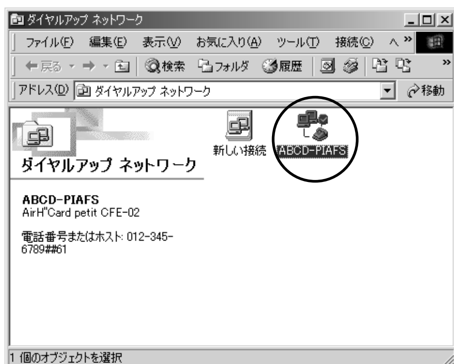
●Windows® 95/98/98SE/Meの場合 →68ページ
●Windows® 2000の場合 →70ページ
●Windows® XPの場合 →71ページ
●Windows® CE（Handheld／Pocket PC）の場合 →72ページ

お願い ●「ユーザーID」とは、プロバイダから指定されるユーザー識別用のIDコードのことです。プロバイダによっては、「ユーザー名」「ログインID」「アカウント名」などと呼ばれています。

Windows® 95/98/98SE/Meの場合

お願い ●ここでは、Windows® Meの操作画面を使って説明しています。Windows® 95やWindows® 98で操作が異なる場合には、その手順の中で説明します。
●Windows® 95をお使いの場合、WWWやE-メールを利用するためのソフトウェア（「Internet Explorer」や「Outlook Express」など）がインストールされていないことがあります。あらかじめご確認ください。

1 ［スタート］メニューから［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］（Windows® 95の場合は、［プログラム］→［アクセサリ］）と選択し、［ダイヤルアップネットワーク］をクリックして、「インターネットに接続するための設定をする」（→43ページ）で作成した接続用のアイコンをダブルクリックします。



「接続」ダイアログボックスが表示されます。

2 **［ユーザー名］と［パスワード］にプロバイダから指定されたユーザーIDとパスワードを入力します。それから［電話番号］を入力して、［接続］をクリックします。**



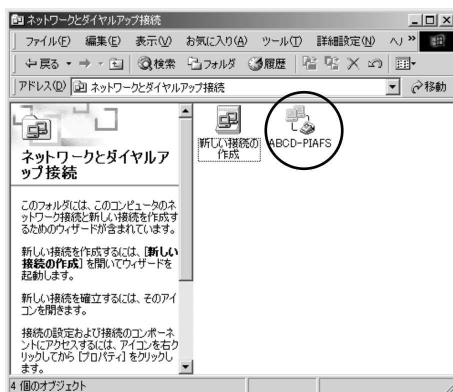
指定した接続先への接続が開始され、接続に成功するとすべてのダイアログボックスが閉じます。
これで、WWWやE-メールを利用するためのソフトウェア（「Internet Explorer」や「Outlook Express」など）を起動してインターネットが利用できる状態になりました。

接続を切るには

画面右下のタスクトレイに表示された をダブルクリックし、表示されたダイアログボックスで［切断］をクリックします。

Windows® 2000の場合

1 ［スタート］メニューから［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］と選択し、［ネットワークとダイヤルアップ接続］をクリックして、「インターネットに接続するための設定をする」（→49ページ）で作成した接続用のアイコンをダブルクリックします。



接続用のダイアログボックスが表示されます。

2 ［ユーザー名］と［パスワード］にプロバイダから指定されたユーザーIDとパスワードを入力し、［ダイヤル］をクリックします。



指定した接続先への接続が開始され、接続に成功するとすべてのダイアログボックスが閉じます。これで、WWWやE-メールを利用するためのソフトウェア（「Internet Explorer」や「Outlook Express」など）を起動してインターネットが利用できる状態になりました。

接続を切るには

画面右下のタスクトレイに表示された をダブルクリックし、表示されたダイアログボックスで［切断］をクリックします。

Windows® XPの場合

1 **［スタート］メニューから［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］と選択し、［ネットワーク接続］をクリックして、「インターネットに接続するための設定をする」（→56ページ）で作成した接続用のアイコンをダブルクリックします。**



接続用のダイアログボックスが表示されます。

2 **［ユーザー名］と［パスワード］にプロバイダから指定されたユーザーIDとパスワードを入力し、［ダイヤル］をクリックします。**



指定した接続先への接続が開始され、接続に成功するとすべてのダイアログボックスが閉じます。これで、WWWやE-メールを利用するためのソフトウェア（「Internet Explorer」や「Outlook Express」など）を起動してインターネットが利用できる状態になりました。

接続を切るには

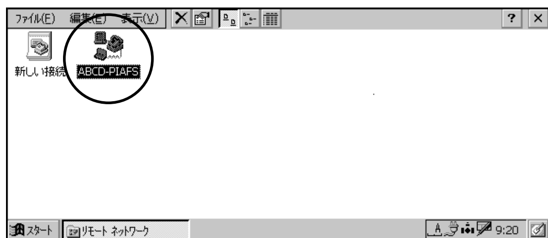
画面右下のタスクトレイに表示された をダブルクリックし、表示されたダイアログボックスで［切断］をクリックします。

Windows® CE（Handheld／Pocket PC）の場合

ここでは、Windows® Powered Handheld PC 2000の画面で説明します。

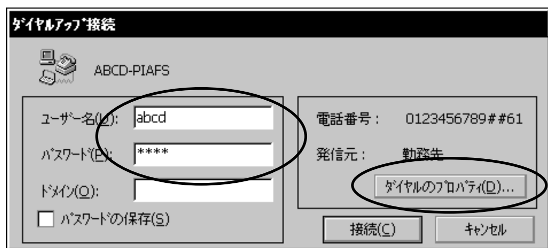
お願い ●Windows® CEをタッチペンなどで操作される場合には、「クリック」は「タップ」、「ダブルクリック」は「ダブルタップ」などと読み替えて操作してください。

1 ［スタート］メニューから［プログラム］→［通信］と選択し、［リモートネットワーク］をクリックして、「インターネットに接続するための設定をする」（→63ページ）で作成した接続用のアイコンをダブルクリックします。



「ダイヤルアップ接続」ダイアログボックスが表示されます。

2 ［ユーザー名］と［パスワード］にプロバイダから指定されたユーザーIDとパスワードを入力し、［ダイヤルのプロパティ］をクリックします。



「ダイヤルのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

お願い ●電話番号の表示に、0発信（TO,）が表示されている場合は、電話番号の設定が違っています。この場合は、「ダイヤルのプロパティ」→「ダイヤルパターン」で設定を変更します。
市内電話：G　　市外電話：FG　　国際電話：EFG
に変更して「OK」をクリックします。

3 ［ダイヤル方法］で［トーン］を選択し、［OK］をクリックします。

「ダイヤルアップ接続」ダイアログボックスに戻ります。



お願い　●［発信元］に発信元の名称（「CFE-02発信」などの分かりやすい名前）を設定すると、次回から手順3の操作は省略できます。

4 ［電話番号］を確認して、［接続］をクリックします。

指定した接続先への接続が開始され、接続に成功するとすべてのダイアログボックスが閉じます。
これで、WWWやE-メールを利用するためのソフトウェア（「Pocket Internet Explorer」や「Pocket Outlook」など）を起動してインターネットが利用できる状態になりました。

接続を切るには

画面右下のタスクトレイに表示されたアイコンをダブルクリックし、表示されたダイアログボックスで［切断］をクリックします。

3 各種の機能を設定する

本CF型カードの詳細機能を設定するときは、「ユーティリティソフトをインストールする」(→41ページ)でインストールしたアプリケーション「AirH"Card petit CFE-02 ユーティリティ」を使用します。
パソコンの画面上から、本CF型カードを簡単にコントロールすることができます。

ユーティリティソフトについて

ユーティリティソフトを使うと、次のような機能を利用することができます。
●待受モード、本CF型カードの設定状態を表示
●待受モードの変更
●発信者番号通知の設定
●分計サービスの設定
●着信音の設定

各機能について、詳しくはユーティリティソフトのヘルプをご覧ください。

ユーティリティソフトを起動する

Windows® 95/98/98SE/Me/2000/XPの場合

［スタート］メニューから［プログラム］→［AirH"Card petit CFE-02 ユーティリティ］と選択し、［AirH"Card petit CFE-02 ユーティリティ］をクリックします。使いかたについては、Air H"Card petit CFE-02 ユーティリティヘルプを参照してください（［スタート］→［プログラム］→［AirH"Card petit CFE-02 ユーティリティ］と選択し、［AirH"Card petit CFE-02 ユーティリティヘルプ］をクリックするとヘルプを参照できます）。

お願い ●Windows® CEのユーティリティソフトは付属していません。詳細機能を設定する場合には、ATコマンドをお使いください（→81、83ページ）。

3 データ通信をする

本CF型カードでは、市販の通信ソフトなどを使ってデータ通信を行うことができます。

●接続できる相手先については、「通信方式について」（→16ページ）をご覧ください。

●通信ソフトの設定方法については、「ハイパーターミナル（通信ソフト）を使うには」（→78ページ）、および、お使いの通信ソフトの取扱説明書をご覧ください。

●ATコマンドの設定については、「ATコマンドを入力するには」（→81ページ）、および「ATコマンドリファレンス」（→83ページ）をご覧ください。

ここでは、次の事項について説明します。

●通信方式と電話番号の設定について

●家庭モードでデータ通信するには

通信方式と電話番号の設定について

本CF型カードでデータ通信を行う場合には、接続先に応じて通信方式を切り替える必要があります。通信方式の切り替えかたには、次の2つの方法があります。

●電話番号で指定して切り替える

●ATコマンドで切り替える

電話番号で指定して切り替えるには

通信ソフトの「電話番号」の設定で、電話番号に続けて「##n」（nは3、4または61）を指定すると、通信方式を接続先ごとに切り替えることができます。

電話番号が「012-345-6789」の場合を例に説明します。

●PIAFSに対応しているTA、またはPHS端末に32kbpsで接続する場合（32kPIAFS方式）：
　電話番号に「##3」を付ける（例：012-345-6789##3）

●ベストエフォート方式のPIAFSに対応しているTAに接続する場合（64kPIAFS方式）：
　電話番号に「##4」を付ける（例：012-345-6789##4）

●PIAFSに対応していないTAに、PTE経由で接続する場合（64kPIAFS方式）：
　「1695##4＊」に続けて電話番号を入力する（例：1695##4＊012-345-6789）

●32kパケット方式に対応しているアクセスポイントに接続する場合（32kパケット方式）：
　電話番号に「##61」を付ける（例：012-345-6789##61）

ATコマンドで切り替えるには

通信ソフトの通信設定欄、または本CF型カードのプロパティの［追加設定］に、ATコマンド「@Omn」を入力すると、電話番号の「##n」を省略した場合の標準の通信方式を切り替えることができます。

「@Omn」コマンドの詳細については、「ATコマンドリファレンス」（→83ページ）をご覧ください。

注意 ●（##n）を省略するときは、必ず「@0mn」を設定する必要があります（工場出荷時の設定で（##n）を省略したときは、通信できません）。

お願い ●電話番号で「##n」を指定した場合は、「##n」の指定が優先されます。
●PTE経由で接続するときの電話番号は、「@O4」が設定されている場合には、「##4」を省略して「1695＊012-345-6789」などと設定できます。

家庭モードでデータ通信をするには

本CF型カードは、データ通信対応の家庭用デジタルコードレス電話機（親機）に子機として登録し（→97ページ）、親機経由で、外線や他の子機とデータ通信することができます。
親機を介したデータ通信を行う場合には、次の手順で操作してください。

1 本CF型カードの待受モードを「家庭モード」に切り替えます。

待受モードの切り替えは、付属のユーティリティソフトで行ってください（→74ページ）。
また、電話番号やATコマンドで指定して切り替えることもできます。詳しくは、「ATコマンドリファレンス」（→83ページ）の「Dコマンド」「@Mmnコマンド」をご覧ください。

2 お使いの通信ソフトで接続先にダイヤルします。

他の子機と通信するときの電話番号には、その子機の内線番号を指定します。
電話番号には必ず家庭モードを指定してください（省略した場合は待受モードに関係なく公衆で発信します）。家庭モード1で32kbpsで発信する場合は、「##3,21」と指定します。詳しくは、「ATコマンドリファレンス」（→83ページ）の「Dコマンド」をご覧ください。

お願い ●指定できる通信方式は、親機および接続先によって異なります。それらが対応している通信モードを選択してください。
●着信動作は、お使いの通信ソフトによって異なります。詳しくは、お使いの通信ソフトの取扱説明書をご覧ください。
●通信距離は、見通し距離で約100mです。
●32kパケット方式を設定した場合はお使いになれません。

4 その他の操作

4 ハイパーターミナル（通信ソフト）を使うには

本CF型カードでは、市販の通信ソフトを使ってデータ通信を行うことができます。
「ハイパーターミナル」は、Windows®に付属の通信ソフトです。ここでは、ハイパーターミナルの設定方法について説明します。その他の通信ソフトをお使いの場合は、これを参考にして設定してください。

1 ［スタート］メニューから、［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］（Windows® 95の場合は、［プログラム］→［アクセサリ］）と選択し、［ハイパーターミナル］をクリックします。

「Hyper Terminal」ウィンドウが開きます。（Windows® Me/2000/XPでは、「接続の設定」ダイアログボックスが開きます。手順3に進んでください。）

お願い ●［ハイパーターミナル］が表示されない場合には、Windows® のヘルプをご覧になり、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」から［Windows ファイル］→「通信」→［詳細］と選択して、インストールしてください。

2 「Hypertrm.exe」をダブルクリックします。

「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。



3 **［名前］に接続先の名称や通信方式などの分かりやすい名前（例：ABCD-PIAFS）を入力し、［OK］をクリックします。**



次のダイアログボックスが表示されます。

4 **接続先の電話番号を入力して、［OK］をクリックします。**

各入力欄は、次のように入力してください。
「国番号」：　「日本（81)」を選択します。
「市外局番」：空白にしておきます。
「電話番号」：接続先の電話番号を、通信方式に応じて半角文字で次のように入力します。
電話番号は市外局番から指定してください。
例）電話番号が「012-345-6789」のとき
32kPIAFS方式の場合：　012-345-6789##3
64kPIAFS方式の場合：　012-345-6789##4
64kPIAFS方式（PTE経由）の場合：1695##4＊012-345-6789
32kパケット方式の場合：　012-345-6789##61
「接続方法」：「AirH"Card petit CFE-02」を選択します。



入力した内容を確認してから、［OK］をクリックしてください。
「接続」ダイアログボックスが表示されます。

お願い　●ご利用の料金コースに合わせた通信方式をお選びください。詳しくは、DDIポケットにお問い合わせください。

5 ［変更］をクリックします。



作成した接続のプロパティを設定するダイアログボックスが表示されます。

6 ［国/地域番号と市外局番を使う］のチェックマークを外し、［OK］をクリックします。



「接続」ダイアログボックスに戻ります。

お願い ●各種の機能をATコマンドで設定する場合は、［モデムの設定］→［接続］タブ→［詳細］と選択し、追加設定に入力してください。

7 ［キャンセル］をクリックします。

接続ダイアログボックスが閉じます。
この状態で「AT」と入力して【Enter】キーを押し、「OK」と表示されたら設定は完了です。

接続するには
［通信］メニューから［電話］（Windows® 95の場合は［接続］）をクリックして「接続」ダイアログボックスを表示させ、電話番号を確認して、［ダイヤル］をクリックします。

設定を再利用するには
［ファイル］メニューの［名前を付けて保存］をクリックして、設定内容を保存できます。

4 ATコマンドを入力するには

ATコマンドとは？

「ATコマンド」とは、モデムなどの通信機器をパソコンから制御するために、米国Hayes社が定めた制御コマンドのことです。現在では、各社が独自に拡張したコマンドも含めて「ATコマンド」と呼ばれ、モデムなどの制御に一般的に利用されています。
本CF型カードも、このATコマンドを使って、一般のモデムと同様に制御することができます。

ATコマンドを入力する

ATコマンドは、通信ソフトから半角文字で、「AT」に続けて次のように入力します：

　AT［コマンド名］［パラメータなど］【Enter】

入力したコマンドは、【Enter】キーを押したときにモデムに送信されます。
一般に、各コマンドは他のコマンドに続けて入力できます。

例） ATE0（ゼロ）【Enter】　ATQ1【Enter】　AT\V1【Enter】



　ATE0（ゼロ）Q1\V1【Enter】

お願い　●ATコマンドは、大文字または小文字で入力できます。ただし、大文字と小文字を混ぜて入力することはできません。

ATコマンドを入力できる状態は

接続先に接続していない状態のときは、入力した文字がすべてコマンドとして見なされます。この状態を**「コマンド状態」**と呼びます。
接続先と接続して、データ通信ができる状態（オンライン状態）になっているときにATコマンドを入力するには、エスケープコマンド「+++」を入力します。この状態を**「オンラインコマンド状態」**と呼びます。オンラインコマンド状態からオンライン状態に戻るときは、「ATO【Enter】」と入力します。
また、回線を切断すると、自動的にコマンド状態に戻ります。

ATコマンドの入力例

発信者番号を非通知にするときは

AT#A0（ゼロ）【Enter】と入力します。

分計サービスを利用するときは

AT@B1【Enter】と入力します。

4 ATコマンドを入力するには

リザルトコードについて

モデムはATコマンドを受け取ると、その実行結果を「リザルトコード」によってパソコンに通知します。リザルトコードの表示形式には、数字形式と文字形式とがあり、Vnコマンドで切り替えることができます。

Sレジスタについて

Sレジスタは、モデムの設定状態を記憶しておくためのものです。設定内容ごとに複数の記憶領域があり、Sレジスタ番号で区別されます。Sレジスタの設定はSr=nコマンドで、読み出しはSr?コマンドで行います。
Sレジスタに設定したデータは、電源が切れると失われるため、保存用のメモリ（プロファイル）が用意されています。現在のSレジスタの設定値をプロファイルに保存するには、&Wコマンドを実行します。
キャリア検出許容時間の現在値を読み出すときはATS7?【Enter】と入力します。

ATコマンドリファレンス

ATコマンド一覧

コマンド	意味
A/	コマンドの再実行
A	着信応答
D	ダイヤル発信
En	コマンドエコー設定
Hn	フック制御
In	アイデンティフィケーション
On	オンライン状態への移行
Qn	リザルトコード設定
Sr?	Sレジスタの内容表示
Sr=n	Sレジスタ値の設定
Vn	リザルトコード形式
W	プロファイルの読み出し
Xn	リザルトコードの範囲指定
Z	ソフトリセット
\Vn	拡張リザルトコードの選択1
\Xn	拡張リザルトコードの選択2（プロトコル）
&Cn	DCD制御
&Dn	DTR制御
&F	出荷時設定値の呼び出し
&Kn	フロー制御

コマンド	意味
&Sn	DSR制御
&V	現在の設定状態を表示
&W	プロファイルへの書き込み
&Z	プロファイルの初期化
#An	発信者番号通知の設定
#Bn	発信者番号表示の設定
#Cn	着信時の通話サービス表示の設定
@Bn	分計サービスの設定
@Dn	着サブアドレス有／無の設定
@Fn	リダイヤル情報表示の設定
@Mmn	待受モードの切り替え
@Om	通信サービスの変更
@Pn	６４kデータ着信時のPIAFS動作設定
##POFF	カード電源OFF
##PON	カード電源ON
+++	エスケープコマンド

ATコマンド詳細

A/	
機能	コマンドの再実行
書式	A/【Enter】（「AT」を付けずに入力する）
説明	直前に実行したコマンドを再実行します。
A	
機能	着信応答
書式	ATA【Enter】
説明	着信に応答します。このコマンドのあとに続けて入力した内容は、無視されます。
D	
機能	ダイヤル発信
書式	ATD［パラメータ］［電話番号＋特番］＊［サブアドレス］【Enter】
説明	ダイヤル発信動作を行います。 〔パラメータ〕 ・P、T：本CF型カードでは無視されます。 ・L：　直前にかけた電話番号＋特番に再発信（リダイヤル）します。このコマンドのあとに続けて入力した内容は、無視されます。 〔電話番号＋特番〕 ・電話番号は、「0（ゼロ）～9」と「#」で32桁まで入力できます。電話番号の中に、カンマ「,」、ハイフン「-」、および空白を入力することができます。 ・特番は、電話番号の末尾に「##」に続けて「Xx,Yy」の形式で指定します。 Xx=3：　32kPIAFS方式で発信 Xx=41：64kPIAFS方式（PIAFS 2.0版）で発信 Xx=42：64kPIAFS方式（PIAFS 2.1/2.2版）で発信（「2」は省略できます） Xx=61：32kパケット方式で発信 Yy=00：公衆モードで発信する（分計サービスを使用しない） Yy=01：公衆モードで発信する（分計サービスを使用する） Yy=21：家庭モード1で発信する Yy=22：家庭モード2で発信する 特番が記述されていない場合は、公衆発信、@O、@Bコマンド設定により発信します。 例）「012-345-6789##4,01」のように入力します。 〔サブアドレス〕 ・「@D1」が設定されているとき、「＊」に続く文字列をサブアドレスと見なします。サブアドレスは、「0～9、#、＊、A～Z、a～z」で19桁まで入力できます。サブアドレスの中に、カンマ「,」、ハイフン「-」、および空白を入力することができます。

En	
機能	コマンドエコー設定
書式	ATE0（ゼロ）【Enter】　：コマンドエコーしない
	ATE1【Enter】　：コマンドエコーする（初期値）
説明	入力したコマンドを、パソコンにエコーバックするかどうかを設定します。
Hn	
機能	フック制御
書式	ATH0（ゼロ）【Enter】（「0（ゼロ）」は省略できます）
説明	回線を切断します。
In	
機能	アイデンティフィケーション
書式	ATI0（ゼロ）【Enter】　：「OK」のみを返す
	ATI1【Enter】　：製品名を表示する
	ATI2【Enter】　：「PHS」と表示する
	ATI3【Enter】　：メーカー名を表示する
	ATI4【Enter】　：製品コードを表示する
	ATI5【Enter】　：ファームウェアバージョンを表示する
	ATI6【Enter】　：登録されている電話番号（公衆モード）を表示する
	ATI7【Enter】　：登録されている電話番号（家庭モード）を表示する
	ATI8【Enter】　：「OK」のみを返す
	ATI9【Enter】　：端末形態として「0（ゼロ）」（キーを持たないデータカード）を返す
説明	本CF型カードの識別情報を表示します。
On	
機能	オンライン状態への移行
書式	ATO0（ゼロ）【Enter】（「0（ゼロ）」は省略できます）
説明	オンラインコマンド状態でのみ入力できます。オンライン状態へ移行します。
Qn	
機能	リザルトコード設定
書式	ATQ0（ゼロ）【Enter】　：リザルトコードを表示する（「0（ゼロ）」は省略できます）（初期値）
	ATQ1【Enter】　：リザルトコードを表示しない
説明	リザルトコードを表示するかどうかを設定します。

Sr?	
機能	Sレジスタの内容表示
書式	ATS［Sレジスタ番号］?【Enter】
説明	「r」で指定したSレジスタの内容を表示します。直前にアクセスしたSレジスタがあれば、「Sr」を省略して、「AT?」のみでその内容を表示できます。
Sr=n	
機能	Sレジスタ値の設定
書式	ATS［Sレジスタ番号］=［設定値］【Enter】
説明	「r」で指定したSレジスタに「n」で指定した値を設定します。直前にアクセスしたSレジスタがあれば、「Sr」を省略して、「AT=n」のみでそのレジスタに設定できます。
Vn	
機能	リザルトコード形式
書式	ATV0（ゼロ）【Enter】　：リザルトコードを数字形式にする ATV1【Enter】　：リザルトコードを文字形式にする（初期値）
説明	リザルトコードの表示形式を設定します。
W	
機能	プロファイルの読み出し
書式	ATW【Enter】
説明	AT&Wでプロファイルに保存した設定値を、各種のパラメータやSレジスタの設定値として読み込みます。
Xn	
機能	リザルトコードの範囲指定
書式	ATX0（ゼロ）【Enter】　：基本コードのみを表示 ATX4【Enter】　：基本コードとすべての拡張コードを表示（初期値）
説明	接続時のリザルトコードの表示方法を設定します（→92ページ）。 nに「1～3」を指定したときは、「4」と同様に解釈されます。
Z	
機能	ソフトリセット
書式	ATZ【Enter】
説明	本CF型カードをリセットし、各種のパラメータやSレジスタに、プロファイルに保存された設定値を読み込みます。回線接続中に実行したときは、回線が切断されます。

¥Vn	
機能	拡張リザルトコードの選択1
書式	AT¥V0（ゼロ）【Enter】：拡張リザルトコード1を表示しない AT¥V1【Enter】：拡張リザルトコード1を表示する（初期値）
説明	拡張リザルトコード1を表示するかどうかを設定します。 （本CF型カードでは、表示される拡張リザルトコード1はありません。）

¥Xn	
機能	拡張リザルトコードの選択2（プロトコル）
書式	AT¥X0（ゼロ）【Enter】：拡張リザルトコード2を表示しない（初期値） AT¥X1【Enter】：拡張リザルトコード2を表示する
説明	拡張リザルトコード2（プロトコル）を表示するかどうかを設定します。

&Cn	
機能	DCD制御
書式	AT&C0（ゼロ）【Enter】：DCD信号を常にONにする AT&C1【Enter】：データリンク確立時のみONにする（初期値）
説明	DCD（受信キャリア検出）信号の動作を設定します。

&Dn	
機能	DTR制御
書式	AT&D0（ゼロ）【Enter】：DTR信号を無視する（常にONと見なす） AT&D1【Enter】：ONからOFFでオンラインコマンド状態に移行する AT&D2【Enter】：ONからOFFで回線を切断する（初期値）
説明	DTR（データ端末レディ）信号の動作を設定します。 nに「3」を指定したときは、「2」と同様に動作します。

&F	
機能	出荷時設定値の呼び出し
書式	AT&F【Enter】
説明	各種のパラメータやSレジスタの設定値を、工場出荷時の値に設定します。 回線接続中に実行したときは、回線が切断されます。

&Kn	
機能	フロー制御
書式	AT&K3【Enter】
説明	RTS/CTSによる双方向ハードウェアフロー制御に設定します。 （本CF型カードでは、その他の制御方式は設定できません。）

&Sn	
機能	DSR制御
書式	AT&S0(ゼロ)【Enter】：DSR信号を常にONにする（初期値） AT&S1【Enter】：DTR信号がONの時にのみDSR信号をONにする
説明	DSR（データセットレディ）信号の動作を設定します。
&V	
機能	現在の設定状態を表示
書式	AT&V【Enter】
説明	現在設定されている各種のパラメータやSレジスタの値を表示します。
&W	
機能	プロファイルへの書き込み
書式	AT&W【Enter】
説明	現在の各種のパラメータやSレジスタの設定値を、プロファイルに保存します。
&Z	
機能	プロファイルの初期化
書式	AT&Z【Enter】
説明	プロファイルの内容を、工場出荷時の設定値に戻します。
#An	
機能	発信者番号通知の設定
書式	AT#A0(ゼロ)【Enter】：電話番号を接続先に通知しない AT#A1【Enter】：電話番号を接続先に通知する（初期値）
説明	自局の電話番号を接続先に通知するかどうかを設定します。 「AT#A?【Enter】」で、現在の設定値を確認できます。

#Bn	
機能	発信者番号表示の設定
書式	AT#B［パラメータ］【Enter】
説明	着信時に相手先の電話番号を表示するかどうかなどを設定します。 〔パラメータ〕 「x:y:z」の形式で指定します。 x=0（ゼロ）　：発信者番号を表示しない（初期値） x=1　：発信者番号を表示する 以下は、「x=1」の場合のみ指定できます。 y=0（ゼロ）　：非通知理由を表示しない（初期値） y=1　：非通知理由を表示する z=0（ゼロ）　：転送元番号を表示しない（初期値） z=1　：転送元番号を表示する 「AT#B?【Enter】」で、現在の設定値を確認できます。
#Cn	
機能	着信時の通話サービス表示の設定
書式	AT#C0（ゼロ）【Enter】：通話サービスを表示しない（初期値） AT#C1【Enter】：通話サービスを表示する
説明	着信時の通話サービスを表示するかどうかを設定します。 「AT#C?【Enter】」で、現在の設定値を確認できます。
@Bn	
機能	分計サービスの設定
書式	AT@B0（ゼロ）【Enter】：分計サービスを使用しない（初期値） AT@B1【Enter】：分計サービスを使用する
説明	分計サービスを使用するかどうかを設定します。（→96ページ） 「AT@B?【Enter】」で、現在の設定値を確認できます。
@Dn	
機能	着サブアドレス有／無の設定
書式	AT@D0（ゼロ）【Enter】：「*」以降の文字列も電話番号と見なす AT@D1【Enter】：「*」以降の文字列をサブアドレスと見なす（初期値）
説明	発信時のDコマンドの電話番号指定で、「*」以降の文字列をサブアドレスとして見なすかどうかを設定します。 「AT@D?【Enter】」で、現在の設定値を確認できます。 サブアドレスセパレータはS103レジスタにて変更可能です。

@Fn	
機能	リダイヤル情報表示の設定
書式	AT@F0(ゼロ)【Enter】：リダイヤル情報を表示しない（初期値） AT@F1【Enter】：リダイヤル情報を表示する
説明	リダイヤル発信時に、詳細情報（電話番号、サブアドレス指定、各種のモード情報）を表示するかどうかを設定します。 「AT@F?【Enter】」で、現在の設定値を確認できます。
@Mmn	
機能	待受モードの切り替え
書式	AT@M0(ゼロ)1【Enter】：公衆モードに切り替える（「1」または「0(ゼロ)1」を省略できます）
説明	待受モードを切り替えます。 「AT@M?【Enter】」で、現在の待受モードを確認できます。 「AT@M21【Enter】」：家庭モード1に切り替える（「1」は省略できます） 「AT@M22【Enter】」：家庭モード2に切り替える 「AT@MA1【Enter】」：公衆＋家庭モード1に切り替える（「1」は省略できます） 「AT@MA2【Enter】」：公衆＋家庭モード2に切り替える
@Omn	
機能	通信サービスの変更
書式	AT@O3【Enter】　：32kPIAFS方式に設定する AT@O41【Enter】：64kPIAFS方式（PIAFS 2.0版）に設定する AT@O42【Enter】：64kPIAFS方式（PIAFS 2.1／2.2版）に設定する（「2」は省略できます） AT@O61　：32kパケット方式に設定する
説明	通信サービスのデフォルト値を設定します。 「AT@O?【Enter】」で、現在の設定値を確認できます。
@Pn	
機能	64kデータ着信時のPIAFS設定
書式	AT@P0(ゼロ)【Enter】　：PIAFS 2.0版ギャランティ方式で動作 AT@P1【Enter】　：PIAFS 2.2版ベストエフォート方式で動作（初期値）
説明	64kデータ着信時のPIAFS設定を行います。

##POFF	
機能	カード電源OFF
書式	AT##POFF【Enter】
説明	本CF型カードの電源をOFFにします。このコマンドのあとに続けて入力した内容は、無視されます。
##PON	
機能	カード電源ON
書式	AT##PON【Enter】
説明	本CF型カードの電源をONにします。このコマンドのあとに続けて入力した内容は、無視されます。
+++	
機能	エスケープコマンド
書式	+++
説明	オンライン状態で入力すると、オンラインコマンド状態に移行します。

リザルトコード一覧

数字形式	文字形式		意味	備考
	パラメータ*1			
0	OK		コマンド正常終了	
1	CONNECT		接続完了／ オンライン状態に移行	
2	RING	(なし)	着信あり	
		PROTOCOL=3	32kPIAFSで着信	「#C1」で表示
		PROTOCOL=41	64kPIAFSギャランティで着信	
		PROTOCOL=42	64kPIAFSベストエフォートで着信	
		ID=XXX	発信者の電話番号	「#B1:y:z」で表示
		CAUSE=	非通知理由	「#B1:1:z」で表示
		REDIALING=	転送元の電話番号	「#B1:y:1」で表示
3	NO CARRIER		回線が切断された	
4	ERROR		コマンドエラー	
7	BUSY		接続先ビジー（話中）	
19	CONNECT 115200		通信速度115,200bps*2で接続	
29	DELAYED		リダイヤル規制	カード側で自動規制
33	CONNECT 115200 XX YY		通信速度115,200bps*2で接続	「X4」で表示 XX：拡張リザルトコード1 YY：拡張リザルトコード2

*1　パラメータは、「RING」に続いて改行して表示されます。

*2　本CF型カードとパソコンの間の通信速度を示します。

拡張リザルトコード1（XX）

「X4」と「￥V1」を設定している場合に、接続時の通信速度に続いて表示されます。
（本CF型カードで表示される拡張リザルトコード1はありません。）

拡張リザルトコード2（YY）

「X4」と「￥X1」を設定している場合に、接続時の通信速度に続いて表示されます。

数字形式	文字形式	意味
ー	（なし）	
ー	／32kPIAFS	32kPIAFS方式で接続
ー	／32kPACKET	32kパケット方式で接続
ー	／64kPIAFS GR	64kPIAFSギャランティ方式で接続
ー	／64kPIAFS BE	64kPIAFSベストエフォート方式で接続

Sレジスター覧

S0	
機能	自動着信までの呼び出し回数
設定値	0～50（回）
初期値	0（自動着信しない）
説明	呼び出し信号を検出したとき、指定した回数のRINGで自動着信します。 「0（ゼロ）」を設定すると、自動着信しません。
S7	
機能	キャリア検出許容時間
設定値	1～255（秒）
初期値	50
説明	A、D、Oコマンドを実行してから相手のキャリア信号を検出するまでの許容時間を設定します。
S25	
機能	DTRに対する遅延時間
設定値	1～255（1/100秒）
初期値	5（0.05秒）
説明	オンライン状態で、DTR信号がONからOFFに変化したとき、変化を検出してから認識するまでの遅延時間を設定します。
S30	
機能	無通信監視タイマ（不活動切断タイマ）
設定値	0～255（×10秒）
初期値	0（無通信監視を行わない）
説明	接続中に無通信状態が続いたとき、自動的に切断するまでの時間を設定します。 オンラインコマンド状態ではATコマンドを受信したとき、オンライン状態ではデータを送信したときにタイマがクリアされます。

S86	
機能	網切断理由
説明	読み出しのみで、設定はできません。 網から切断されたとき、その切断理由を示す番号が、以下の数値で設定されます。 理由表示値 000：切断理由なし、またはその他の理由 016：正常切断 017：接続先がビジー（話中） 018：接続先から応答なし 019：接続先の呼び出し中／応答なし 020：加入者が存在しない 021：接続先で通信拒否 088：端末属性が一致しない プロトコル種別 067：RCR STD-28無線区間無線管理メッセージ 069：RCR STD-28無線区間呼制御メッセージ 設定された値は、次にA、D、Z、&Fコマンドを実行するか、着信または電源断があるまで保持されます。

S103	
機能	サブアドレスの区切り
説明	サブアドレスを付加して発信する場合のセパレータキャラクタを設定する 0：'／' スラッシュ 1：'¥' 円マークまたはバックスラッシュ 2：'*' アスタリスク（初期値） 3：'#' シャープ

4　分計サービスを利用するときは

「分計サービス」は、DDIポケットが提供するサービスです。分計サービスをご利用になると、通話料金の請求先を2つに分けることができます。ビジネス用と個人用など、用途に応じて料金を区別したい場合などに便利です。

お願い
- 分計サービスをご利用になるには、別途DDIポケットに申し込みが必要です（有料）。詳しくは、DDIポケットサービスセンター（→108ページ）にお問い合わせください。
- 32kパケット方式では、分計サービスに対応しておりません。

本CF型カードで分計サービスを利用するときは、付属のユーティリティソフト、または「@B1」コマンドで設定できます。また、接続先ごとに使い分けるときは、電話番号の特番で指定することもできます。詳しくは、「ATコマンドリファレンス」（→83ページ）をご覧ください。

4 子機として登録するには

CFEシリーズコンパクトフラッシュ型データ通信カードは、自営標準（STD-28　3版）準拠の家庭用親機に登録して、内線データ通信端末として利用できます。

お願い
- ●子機登録は電波を使用するため、雑音電波の発生源となる可能性のある電化製品の近くでは登録がしにくい（できない）場合があります。
- ●本CF型カードに登録する内線番号は重複しないように注意してください。内線番号が重複した場合、正しく呼出しができないなどの誤動作の原因になる可能性があります。
- ●登録は、必ず電源が接続されているパソコンで行ってください。登録動作の途中でパソコンの電源が切れた場合、本CF型カードが故障する恐れがあります。

注意
- ●本CF型カードは、ご購入時点で家庭1、家庭2ともに登録されておりません。また、本CF型カードは子機間通信（トランシーバ）に対応しておりません。

登録方法

登録する親機の取扱説明書をよくお読みになり、操作を行ってください。本CF型カードの子機登録は、本CF型カードに添付されているCD-ROM内の AirH"Card petit ユーティリティソフトを使用して行います。入力は全て半角英数字で行います。登録を始める前にあらかじめ、ご使用のパソコンに本CF型カードのドライバおよび AirH"Card petit ユーティリティソフトのインストールを行っておく必要があります。**また、本CF型カードの登録する家庭モードがすでに登録済みの場合は、必ず一度消去（→100ページ）を行ってから、登録してください。**

1 **親機を子機登録可能な状態にします（親機の取扱説明書を参照ください）。**

2 **本CF型カードをパソコンに挿入します。**

3 **AirH"Card petit ユーティリティソフトを起動させます。**
「AirH"Card petit ユーティリティ」ウィンドウが開きます。

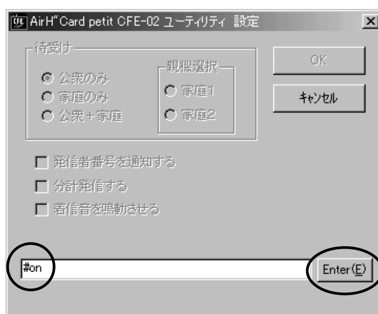
4 ［電源］の設定が［OFF］を選択していることを確認し、［設定］をクリックします。



「AirH"Card petit ユーティリティの設定」ウィンドウが開きます。

お願い ●［電源］の設定が［ON］を選択している場合は、［OFF］に選択し直してください。

5 「#on」の文字列を入力し、［Enter］をクリックします。
「子機登録／削除」と表示され、子機登録モードが設定できます。



6 登録する内線番号（12桁以下）を入力し、「#」を入力します。

7 登録する暗証番号（4桁以下）を入力し、「#」を入力します。

8 **登録する親機番号（1または2）を入力し、「#」を入力します。**

AirH"Card petit CFE-02 ユーティリティ 設定
待受け
公衆のみ
家庭のみ
公衆＋家庭
親機選択
家庭1
家庭2
OK
キャンセル
発信者番号を通知する
分計発信する
着信音を鳴動させる
12#1234#1#
Enter(E)
子機登録／消去

（入力例）
××＃××××＃×＃
親機番号（1または2）
暗証番号（4桁以下）
内線番号（12桁以下）

9 **［Enter］をクリックします。**

「子機登録中」と表示されます。
子機登録が開始され、「AirH"Card petit ユーティリティ」ウィンドウに「登録完了」と表示されます。

お願い ●登録失敗の場合は「登録失敗」と表示されますので、AirH"Card petit ユーティリティソフトを終了させ、本CF型カードを抜いて、もう一度最初からやり直してください。

10 **AirH"Card petit ユーティリティを終了して、パソコンより本CF型カードを抜きます。**

以上で登録操作は終了です。子機として登録されたことを確認するには、再度本CF型カードをパソコンに挿入し、ユーティリティソフトを起動します。待受モードを家庭モード（1または2）に設定し、親機に対して発信操作を行ってください。

4　子機として登録するには

消去方法

登録する親機の取扱説明書をよくお読みになり、操作を行ってください。本CF型カードの子機登録消去は、本CF型カードに添付されているCD-ROM内の AirH"Card petit ユーティリティソフトを使用して行います。入力は全て半角英数字で行います。子機登録消去を始める前にあらかじめ、ご使用のパソコンに本CF型カードのドライバおよび AirH"Card petit ユーティリティソフトのインストールを行っておく必要があります。また、子機登録消去には親機の機能によって2通りの消去方法があります。**また、本CF型カードの登録する家庭モードがすでに登録済みの場合は、必ず一度消去を行ってから、登録してください。**

《親機に子機登録消去機能がある場合》（親機を使います）

1 **親機を子機消去可能な状態にします（親機の取扱説明書を参照ください）。**

2 **本CF型カードをパソコンに挿入します。**

3 **AirH"Card petit ユーティリティソフトを起動させます。**
「AirH"Card petit ユーティリティ」ウィンドウが開きます。

4 **[電源］の設定が［OFF］を選択していることを確認し、[設定］をクリックします。**
「AirH"Card petit ユーティリティの設定」ウィンドウが開きます。

お願い　●［電源］の設定が［ON］を選択している場合は、[OFF］に選択し直してください。

5 **「#on」を入力し、[Enter］をクリックします。**
「子機登録／消去」と表示され、子機登録モードが設定できます。

6 **「#ERASE#」を入力します。**

7 **登録消去する親機番号（1または2）を入力し、「#」を入力します。**

8 **[Enter］をクリックします。**
「子機登録中」と表示されます。
子機登録消去が開始され、AirH"Card petit ユーティリティ画面に「登録完了」と表示されます。

お願い ●登録消去失敗の場合は「登録失敗」と表示されますので、AirH"Card petit ユーティリティソフトを終了させ、本CF型カードを抜いて、もう一度最初からやり直してください。

9 AirH"Card petit ユーティリティを終了して、パソコンより本CF型カードを抜きます。

《親機に子機登録消去機能がない場合》（親機は使いません）

1 本CF型カードをパソコンに挿入します。

2 AirH"Card petit ユーティリティソフトを起動させます。
「AirH"Card petit ユーティリティ」ウィンドウが開きます。

3 ［電源］の設定が［OFF］を選択していることを確認し、［設定］をクリックします。
「AirH"Card petit ユーティリティの設定」ウィンドウが開きます。

お願い ●［電源］の設定が［ON］を選択している場合は、［OFF］に選択し直してください。

4 「#on」を入力し、［Enter］をクリックします。
「子機登録／消去」と表示され、子機登録モードが設定できます。

5 「#del#」を入力します。

6 登録消去する親機番号（1または2）を入力し、最後に「#」を入力します。
AirH"Card petit ユーティリティ画面に「親機ｎ登録消去」（ｎは1または2）と表示されます。

お願い ●登録消去失敗の場合は「親機ｎ消去失敗」（ｎは1または2）が表示されますので、AirH"Card petit ユーティリティソフトを終了させ、本CF型カードを抜いてもう一度最初からやり直してください。

7 AirH"Card petit ユーティリティを終了して、パソコンより本CF型カードを抜きます。

5 困ったときは

5

5 故障かな？と思ったら

本CF型カードが正常に動作しないなど、故障かな？と思ったときは、まず次の項目を確認してください。それでも問題が解決しないときは、お買い上げの販売店または弊社サービス相談センターにお問い合わせください。

症状	確認項目
本CF型カードをセットしても、パソコンが認識しない。	● 本CF型カードが正しくセットされていますか？ もう一度しっかりと差し込んでください。 ● PCMCIAドライバは正常に動作していますか？ 「コントロールパネル」の「PCMCIA」や「PCカード（PCMCIA)」を確認し、もう一度本CF型カードをセットし直してください。 ● 省エネタイプのパソコンでは、PCカードの電源をOFFにしていることがあります。パソコンの取扱説明書をご覧になって、電源の状態を確認してください。
違うモデムドライバで認識された。	● 本CF型カードを取り外し、「コントロールパネル」の「モデム」で誤認識されたドライバを削除してから、もう一度ドライバのインストール（→24ページ）を行ってください。
通信ソフトから使えない。	● 106ページの手順に従って、各項目を確認してください。
通信できない。 通信を始めると、すぐに切れる。	● 接続先の電話番号は正しいですか？ 電話番号は必ず市外局番から入力してください。 ● 通信方式は、接続先の通信方式に合っていますか？ 通信方式が対応していないと接続できません。 ● サービスエリアの圏外ではありませんか？ アンテナランプ（ ）が消えていないか、確認してください。 ● 回線が混雑していると、利用できないことがあります。しばらくしてから、もう一度発信してみてください。 ● 通信方式の設定（##n）は正しいですか？　省略されている場合、「AT@0?」にて現在の設定値をご確認ください。
接続先につながると、すぐに切れる。	● 通信方式は、接続先の通信方式に合っていますか？ 通信方式が対応していないと接続できません。 ● 電話番号、ユーザーID、パスワードの設定や、TCP/IPの設定が正しいかどうか、もう一度確認してください。
64kPIAFS（ベストエフォート方式）の通信ができない。	● 接続先がベストエフォート方式（PIAFS 2.1／2.2）に対応しているか、確認してください。 ● 発信者番号通知が「通知しない」に設定されていませんか？ 64kPIAFSでデータ通信するには、発信者番号を通知する必要があります。（→74ページ） ● 通信方式の設定（##n）は正しいですか？　省略されている場合、「AT@0?」にて現在の設定値をご確認ください。

症状	確認項目
３２kパケット方式の通信ができない。	● 接続先が３２kパケット方式に対応しているか、確認してください。 ● ＤＤIポケットの契約内容に関して３２kパケット方式専用の料金コースが契約されているか、確認してください。 ● 通信方式の設定（＃＃n）は正しいですか？　省略されている場合、「AT@0?」にて現在の設定値をご確認ください。
通信速度が遅い。 通信が安定しない。	● 電波の状態や回線の状態が悪いことがあります。本ＣＦ型カードのアンテナランプ（ ）が緑に点灯しているか確認し、緑に点灯する場所に移動してください。（→１４ページ） ● プロトコルの設定やフロー制御方式が合っているか、確認してください。
文字が化ける。	● ＤＴE速度は「１１５２００」になっているか、確認してください。それ以外は通信できません。 ● プロトコルの設定やフロー制御方式が正しいか、確認してください。本CF型カードでは、Xon/Xoffによるフロー制御は利用できません。
再ダイヤルできない。	● 再発信回数の制限が働いていることがあります。 3分以上たってから、もう一度発信してみてください。
通信していないのに電力を消耗する。	● 通信ソフトを起動していると、通信していない場合も電力を消耗します。通信をしないときは、通信ソフトを終了させてください。
付近のテレビやラジオなどに雑音が入る。	● 本CF型カードはデジタル電子機器ですので、若干の電磁的ノイズを発生します。法令で許容されている微弱な量ですが、付近のテレビやラジオに影響を与えることもあります。テレビやラジオから本CF型カードを離すようにしてください。
アンテナランプ（ ）が赤く点灯し、モードランプ（モード）が消灯している。	● パソコンのカードスロットがDC3.3V電源に対応しているか、パソコンの取扱説明書で確認してください。

本CF型カードが正しく動作しないときの確認手順

ここでは、Windows® 95/98/Meでの確認手順について説明します。他のOSをお使いの場合は、この手順を参考にして確認してください。

1 本CF型カードをセットして、パソコンの電源を入れます。

2 PCMCIAドライバは正しく動作していますか？

画面右下の「タスクトレイ」に（PCカード）が表示されていますか？

→ **表示されていない**
PCMCIAドライバをインストールしてください。詳しくは、お使いのパソコンのメーカーにお問い合わせください。

↓ **表示されている**

（PCカード）をクリックしたとき、[AirH"Card petit CFE-02] と表示されますか？

→ **表示されない**
PCMCIAドライバが正しく動作していないか、カードスロットが本CF型カードに対応していないことが考えられます。詳しくは、お使いのパソコンのメーカーにお問い合わせください。

↓ **表示された**

PCMCIAドライバに問題はありません。

3 本CF型カードのドライバは正しく動作していますか？

「コントロールパネル」の「モデム」をダブルクリックします。
リストに「AirH"Card petit CFE-02」が表示されていますか？

→ **表示されていない**
「標準PCMCIAカードモデム」が表示されているとき、その用途が分からない場合には削除してください。
その後、Windows®を再起動して、本CF型カードのドライバをインストールしてください。（→24ページ）

↓ **表示されている**

[検出結果] タブをクリックし、リストの「AirH"Card petit CFE-02」の左の欄を選択して、[詳細情報] をクリックします。
「コマンド」「応答」の下の欄に本CF型カードの「製品名」「メーカ名」などが表示されましたか？

→ **表示されない**
[OK] をクリックし、[全般] タブで「AirH"Card petit CFE-02」を削除してください。
その後、Windows®を再起動して、本CF型カードのドライバをインストールし直してください。（→24ページ）

↓ **表示された**

ドライバは正しく動作しています。

4 通信設定は正しく設定されていますか？

「コントロールパネル」の「モデム」をダブルクリックし、リストの「AirH"Card petit CFE-02」を選択して［プロパティ］をクリックします。
［最高速度］に「115200」と表示されていますか？

→ **表示されていない**

DTE速度の設定です。「115200」を選択してください。

↓ **表示されている**

［接続］タブをクリックし、［詳細］をクリックします。
［フロー制御を使う］にチェックマークが付き、［ハードウェア(RTS/CTS)］が選択されていることを確認してください。

→ **正しく設定されていない**

設定を、正しく修正してください。

5 通信ソフトを使って通信設定を確認します。

あらかじめ、通信ソフトを使える状態にしてください。
お使いの通信ソフトがない場合には、「ハイパーターミナル（通信ソフト）を使うには」（→78ページ）の操作を行ってください。

通信ソフトの入力ウィンドウに「ati4」と入力して【Enter】キーを押し、画面に「ati4」が表示されているか確認してください。

→ **表示されない**

通信ソフトの操作方法や設定を確認してください。
入力したコマンドが表示されないときは、「ate1」と入力して【Enter】キーを押し、もう一度確認してみてください。

↓ **表示されている**

接続先に発信できるか確認します。
「atd［接続先の電話番号］##n」と入力して【Enter】を押してください。
（nには、通信方式によって 3 または 4 を入力します。）

→ **「NO CARRIER」と表示された**

電話番号や通信方式が正しいか確認し、もう一度入力してみてください。

↓ **「CONNECT xxxxxx」と表示された**

通信設定に問題はなく、通信できる状態になっています。
エスケープコマンドを入力した後に「ath」と入力し、【Enter】キーを押して回線を切断してから通信ソフトを終了してください。

以上の確認操作で問題が見つからなかった場合には、本CF型カードは正常に認識され、ドライバの設定にも問題はありません。
それでも問題が解決しないときは、「ダイヤルアップネットワーク」や「TCP/IP」、「ネットワーク」などの設定に問題がある可能性があります。Windows®のヘルプや「インターネットに接続するための設定をする」（→42ページ）の説明を参考にして、設定に問題がないか、もう一度ご確認ください。

5　カスタマサポートについて

本CF型カードに関するお問い合わせは、下記の弊社サービス相談センターまでお問い合わせください。

NECインフロンティア株式会社　サービス相談センター

受付時間：　　9：00 ～ 17：00
（土、日、祝日および当社の休日を除く）
電話番号：**0120-599225**（PHSからもかけられます）

修理を依頼される場合は、保証書を添えてお買い上げの販売店へご持参ください。保証期間（1年間）中の故障につきましては、無償で修理いたします。（保証内容について、詳しくは「保証書」をご覧ください。）

DDIポケットのサービス内容について、詳しくはDDIポケットサービスセンターへお問い合わせください。

DDIポケットサービスセンター

●データ通信に関するお問い合わせ（無料）

受付時間：平日／9：00～17：30　土・日・祝／9：00～17：00

feel H"・H"・ポケット電話から［局番なしの］**157**　一般加入電話・公衆電話から（携帯電話・PHSからかけられます）フリーコール **0077-7-157**

●ご利用お申し込み・お問い合わせ（無料）

受付時間（日・祝日を除く）：平日／9：00～18：00　土／9：00～17：00

feel H"・H"・ポケット電話から［局番なしの］**116**　一般加入電話・公衆電話から（携帯電話・PHSからかけられます）フリーコール **0077-775**

6 付録

6 主な仕様

製品名	CFE-02
形状	Compact Flash Type II 準拠
外形寸法	51.0mm×42.8mm×5.0（一部は5.9）mm
質量	約16g（本体のみ／PCカードアダプタ部は除く）
電源	DC3.3V(カードスロットより供給)
消費電流	待受時　約6.5mA 64kデータ通信時　約130mA 32kデータ通信時　約80mA 32kパケット通信時　約80mA
待受モード	公衆、家庭、公衆／家庭
制御コマンド	ヘイズ標準ATコマンドに準拠
ＦＡＸコマンド	なし
エラー訂正	PIAFS
音声通話機能	なし
無線区間インターフェイス	RCR STD-28　第3版　準拠
通信方式	64kPIAFS（ベストエフォート方式）／32kPIAFS／32kパケット
JATE認定番号	A01-0833JP J01-0270

用語集

本文中の「*」で示した用語については、この用語集で解説しています。
あわせてご覧ください。

32kPIAFS方式

PHS電話機などで利用される通信方式です。本CF型カードはこの方式に対応しており、同じ方式に対応した他のデータ通信カードや電話機、ターミナルアダプタ*（TAP*）に接続して、32kbpsのデータ通信ができます。

32kパケット方式

DDIポケットがサービスを行っているパケット通信方式です。情報をパケット（小包）に分割して、パケット単位で情報をやりとりする方式です。下り速度最大32kbps、上り速度最大17kbpsでインターネットへの接続が可能です。

64kPIAFS方式

PIAFS*の64k通信方式には「ベストエフォート方式*」と「ギャランティ方式*」の2種類があり、本書で単に「64kPIAFS方式」と呼ぶ場合はベストエフォート方式を指します。本CF型カードはこの方式に対応しており、同じ方式に対応した他の電話機、ターミナルアダプタ*（TAP*）に接続して、最高64kbpsのデータ通信ができます。

ATコマンド

米国Hayes社で開発され、モデムの制御などに一般的に利用されているコマンド群です。コマンドはすべて文字列で、「AT」に続けて指定することから、「ATコマンド」と呼ばれています。

bps

データ通信速度の単位です。Bit Per Secondの略で、1秒間に送信できるビット数を表します。

CFカード

「コンパクトフラッシュ*」に対応した、小型のカード型機器のことです。

DTE

Data Terminal Equipment（データ端末装置）の略で、通常はモデムやターミナルアダプタ*に接続されたパソコンを指します。また、「DTE速度」とは、パソコンとモデムやターミナルアダプタとの間の通信速度のことです。

PC Card Standard

PCMCIA*と日本電子工業振興協会（JEIDA）が共同で開発した、カード型機器の規格です。この規格に準拠したカード型機器のことを「PCカード」と呼びます。

PCMCIA
Personal Computer Memory Card International Associationの略で、日本電子工業振興協会（JEIDA）とともにPC Card Standard*を開発した団体のことです。PCカードのインタフェース規格の名称に記載されたことから、一般にPCカードのインタフェース規格を意味する場合もあります。

PCカード
「PC Card Standard*」に対応した、カード型機器のことです。

PDA
Personal Digital Assistantsの略で、携帯情報端末のことです。

PIAFS
PHS Internet Access Forum Standardの略で、業界標準のデータ通信規格です。この方式でデータ通信を行うには、双方の通信機器がPIAFSに対応している必要があります。

PTE
プロトコル変換装置のことで、通信方式の異なる通信回線どうしを接続して、通信ができるようにします。DDIポケットが提供するPTEを利用すると、64kPIAFS方式*に対応したデータ通信カードや電話機から一般のISDN回線用ターミナルアダプタ*に接続して、64kbpsのデータ通信ができます。

Sレジスタ
モデムなどが内部に持っている、動作中の設定状態を保持しておくための記憶装置のことです。設定内容ごとに複数の記憶領域があり、Sレジスタ番号で区別されます。

TA
ターミナルアダプタ*（Terminal Adapter）のことです。本書では特に、PIAFS*に対応していないターミナルアダプタを指します。

TAP
本書では、PIAFS*に対応しているターミナルアダプタ*を指します。

アクセスポイント
プロバイダが用意している、ネットワーク接続のための電話番号のことです。各プロバイダでは、地域や通信方式に応じて複数のアクセスポイントを用意しています。インターネットに接続するときは、あらかじめアクセスポイントについての情報を入手し、本CF型カードで接続できるアクセスポイントを選択してください。

エラー訂正機能
回線の状況によっては、データ通信でエラーが発生することがあります。この機能は、通信データのエラーを検出して自動的にエラー部分の再送信を行うことによって、正しい通信を行うための機能です。

オンラインコマンド状態
モデムの動作状態のひとつで、相手先との接続中にデータ通信を中断し、パソコンからのコマンドを受け付けられる状態のことです。この状態では、パソコンから送信されたデータは、すべてコマンドとして解釈され、相手先には送信されません。
データ通信中にこの状態に移行するには、パソコンからエスケープコマンドを送信します。

オンライン状態
モデムの動作状態のひとつで、相手先に接続してデータ通信ができる状態のことです。この状態では、パソコンから送信されたデータは、すべて相手先に送信されます。

ギャランティ方式（PIAFS 2.0）
PHSデータ通信の標準規格であるPIAFS*のバージョン2.0に対応した通信方式のことで、最高64kbpsで通信できます。NTTドコモが64kのPHSに採用している通信方式で、接続時に決定された通信速度が切断まで変更されないことが、主な特長です。DDIポケットの公衆網では利用できません。

コマンド状態
モデムの動作状態のひとつで、回線が接続されていない状態のことです。この状態では、パソコンから送信されたデータは、すべてコマンドとして解釈されます。

コンパクトフラッシュ
米国SanDisk社が開発した小型のメモリカード規格「CompactFlash」をベースにして、汎用機器用に拡張された、小型のカード型機器（CFカード）のためのインタフェース規格です。

ターミナルアダプタ
パソコンやアナログ電話機をISDN回線に接続するための、インタフェース変換装置のことです。本書では、PIAFS*に対応しているターミナルアダプタを「TAP*」、対応していないものを「TA*」と表記しています。

ドライバ
デバイスドライバの略で、個々の周辺機器を制御するためのプログラムモジュールのことです。各周辺機器は、製品によって様々な制御方式を持っています。ドライバは、標準的な制御手順しか持たないOSから個々の周辺機器を制御するための、インタフェースとして働きます。

フロー制御
パソコン－モデム間の通信速度と回線側の通信速度の違いから、通信中にモデム内のデータがあふれることを防ぐために行われる通信制御のことです。本CF型カードでは、RTS/CTS信号線によるハードウェアフロー制御のみを使用します。

分計サービス
DDIポケットが提供するサービスで、通話料金の請求先を2つに分けることができます。ビジネス用と個人用など、用途に応じて料金を区別したい場合などに利用します。

ベストエフォート方式
PHSデータ通信の標準規格であるPIAFS*のバージョン2.1/2.2に対応した通信方式のことで、最高64kbpsで通信できます。応じて、64kbpsと32kbpsの通信速度をフレキシブルに切り替え、つながりやすく、切れにくい高速データ通信を実現します。なお、バージョン2.2は、バージョン2.1に端末間の64kbps（ベストエフォート方式）通信機能が追加されたものです。

モデム情報ファイル
Windows®から個々のモデムを利用するために、Windowsに対して行う詳細設定を定義したファイルで、拡張子「.inf」を持つことから「INFファイル」とも呼ばれます。ドライバのインストール時には、最初にINFファイルが検索され、INFファイルに定義された手順に従ってドライバファイルのコピーや各種の設定が行われます。

リザルトコード
モデムが、ATコマンド*を受け取ったときの実行結果や着信動作の結果などを、パソコンに通知するために送信する文字列のことです。

6 索引

英数字

五十音

[ま行]

[や行]

[ら行]

MEMO

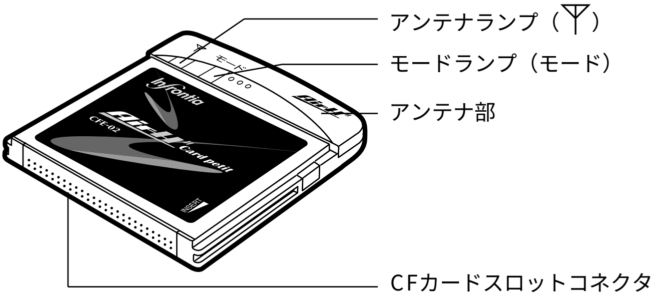
MEMO

ランプ表示の見かた

本CF型カードでは、電波の強さや現在の通信状況などの情報を、2つの表示ランプでお知らせします。

■アンテナランプ（　）

サービスエリア内の電波状態を、5段階表示でお知らせします。



電波	ランプ	意味
強	点灯（緑）	安定した通信が行えます。
中	点灯（オレンジ）	↑
弱	点灯（赤）	電波の状態を示します。
微弱	点滅（赤）	↓
圏外	消灯	通信はできません。

■モードランプ（モード）

本CF型カードの通信状況をお知らせします。

状態	ランプ	意味
待受中	点灯（緑）	公衆モード、公衆＋家庭モード（家庭圏外）。
	点灯（赤）	家庭モード、公衆＋家庭モード（公衆圏外）。
	点灯（オレンジ）	公衆＋家庭モード（両方圏内）。
	遅い点滅（オレンジ）	公衆＋家庭モード（両方圏外）。
発信中／着信中	速い点滅（緑）	公衆モードで発信中／着信中。
	速い点滅（赤）	家庭モードで発信中／着信中。
	速い点滅（オレンジ）	32kパケット、公衆モードで発信中。
通信中	点滅（緑）	64kPIAFS、公衆モードで通信中。
	点滅（赤）	64kPIAFS、家庭モードで通信中。
	遅い点滅（緑）	32kPIAFS、公衆モードで通信中。
	遅い点滅（赤）	32kPIAFS、家庭モードで通信中。
	点滅（オレンジ）	32kパケット、公衆モードで通信中。
電源OFF	消灯	電源OFF（電源供給がない）。

NECインフロンティア株式会社
本社 〒101-8532 東京都千代田区神田司町2-3
MM6036-0610